



贈る言葉

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-04-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00016777

大形・中村両先生への「贈る言葉」

佐々木 博 光

2020年はわたしにとって特別な年である。1995年に大阪府立大学に赴任して以来、大学は改組・統合をくり返し、所属を同じくする同僚もそのたびにめまぐるしく変わった。赴任以来つねに一緒だったのは、大形徹、中村治の両先生だけになってしまった。その両先生が奇しくもお二人そろって2020年に大学を去られる。寂しい限りである。まさにこれはわたしの「2020年問題」である。

大形先生は赴任以来つねに暴走しがちなわたしを温かい目で見守ってください、救いの手を差し伸べてくださった。わたしにとって恩人のような、かけがえのない人である。学問分野も学風も全く異なるが、馬が合うのか、わたしが大学でもっとも長い時間をともに過ごした人である。現役の同僚のなかで、単なる同僚以上の付き合いがあった*¹唯一の人である。今後もこれまでと変わらずお付き合いくださることを願っている。

大形先生はわたしの知る中国学者のなかで異色の存在である。とかくお堅いイメージのある中国学にあって、先生の柔軟すぎる学風はときにトリッキーですらあった。それでも先生がつねに学界の中心にあってそれをリードされたのは、やはり確かな漢籍の読みがあったからに違いない。とにかく古典学を面白くすることにかけての人であった。

大形先生を介して、わたしは多くの研究者、院生、学生、果ては大学職員の方々とも知り合う機会を得た。ほおっておくととかく孤立しがちなわたしに、先生はつねに得難い交流の機会を提供してくださった。また中国からの留学生にとって、大形研究室は憩いの場、拠り所でもあった。大形門下以外でも大形先生に感謝している留学生は少なくないはずである。しばらくはわたしも大学も、「徹ロス」に苦しむことになりそうだ。

中村先生とも同窓のよしみでよく話をさせてもらった。中村先生の学問的な本籍地は西洋中世哲学史であった。わたしが赴任した頃は、裏技として取り組んでおられた地元岩倉の郷土誌に、軸足を移し始めておられた時期ではなかったかと思う。若輩もののわたしは、生意気にもそんな中村先生の学問的な変節を不安な面持ちで眺めていた。西洋の研究に飽いて日本の郷土誌に手を出す西洋学者は星の数ほどいる。しかし成功した例をほとんど知らなかったからだ。やめたほうがよいのではないですか、などといって、

*1 お嬢様お二人のバイオリンのコンサートには、ほぼ毎回、参加し、拝聴しています。あと佐々木先生は、いつも、お弁当を私の部屋で食べています。

先生の不興を買っていたように思う。

しかしその後中村先生は郷土誌の分野でめきめきと頭角を現し、本籍の西洋中世学と合わせて「環境学」なる分野を立ち上げられた。果ては地元岩倉の伝統を生かし、精神医学の分野で博士号を取るという離れ業までやってのけられた。くだらない杞憂から余計なお節介を焼いたかつての自分を、今は只々恥じ入るばかりである。

中村先生のお弟子さんの卒論や修論の試問に立ち会う機会が何度かあった。郷土誌に関しては、はずれはなかった。その優れた指導力に脱帽するばかりである。論文指導の秘訣みたいなものを、機会があればご教示いただきたいものである。

お二人には共通点がある。両氏はほぼ同じ頃に大阪府立大学に助手または講師として採用されたと聞く。爾来大阪府立大学一筋で来られた。もちろん他大学での指導はもとより、社会貢献においても特筆すべき経歴をもたれる。自分の信じる道を王道にすべく駆け抜けた、そんな大学人としての半生にも共通点がある。誇り高いお二人である。大形先生、中村先生、ご退職おめでとうございます。これまで本当にありがとうございます。

中村さんの思い出

瀧野哲郎

木曜午後の会議のまえ、隣の席にはよく中村さんがいた。こちらを向いて微笑み、なにかいろいろと尋ねてくる。小さいころ、正月どんな雑煮食べてた、というように。母が作っていた雑煮、その具を思い起こす。なにかほかにも入っていたはず……会議が始まっても、しばらく頭のなかは雑煮の具。ようやく会議が終わり、その帰り道、横を歩いているのは中村さん——いかに雑煮が多様であるかを教えてくれる。ほかの人もこのようにきかれ、具材に思いを巡らしたにちがいない。会議のたびにテーマは変わる。観電、市バス、しめ縄、卒業写真……どれも、生まれ育った岩倉、洛北、京都の生活と歴史にかかわっているのだろう。地域の人たちに話をきき、写真を見せてもらい、そしてそれをまとめる。そんな本を4冊もらった。そのひとつ、A4判の手に取ってみる——『洛北上高野・山端』、とてもシンプルで、ローカルなタイトル。どこかで眠っていたであろう古写真たちが、昭和の日常を静かに語り始める。

たまにネクタイをつけて会議に現れる中村さん。今日、あそこで話をしたら、みんな興味もってきいてくれてな、と嬉しそう。講演を頼まれれば、快く出かけていくようだ。

だから、これでもけっこう忙しいんやで、と笑っている。そういえば、このまえテレビを見てみると、郷土史家らしく和室に座って解説をしている中村さんが出てきて驚いた。わかりやすく、熱心に説明するのは上手そうだ。隣で話をきいていていつも感じるのは、地域への温かいまなざし、そしてかつての暮らしへの強い関心である。「過去を振り返り、どういう道を歩んできたのかを知る必要がある」と本に記している。それは「これから歩むべき道を考える」ため、なのだ。では、中村さんの辿った道はどうだったのかな、と今ふと思う。もう会議のときにきくこともないが、郷土への思いはこれからも変わることはないであろう。

中村さんとの思い出

田 中 宗 博

中村治先生は、私にとって中学校・高校の二年先輩に当たる。そして、私が一九九〇年に府大総合科学部の日本文化コースに着任した際、中村さん（=敬意と親しみを込めて、以下「さん」と呼ばせて頂く）は西洋文化コースの助教授で、総合科学部一号館の一つ階上の四階の研究室にいらっしゃった。まだ三十を少し出たばかりの、右も左も解らない若輩者の私にとって、中村さんの存在はまことに心強いものがあつたのを、よく記憶している。

以来、公私にわたってご厚誼に預かったものであるが、中村さんの言葉遣いについて、興味深い思い出がある。あまり知られていない事かも知れないが、実は京都で暮らす男子達は、自分と同等か目下の者と話す時、語尾に「…け」を使うことが多い。「あの映画、もう見たけ」「なかなかええ話やんけ」…の類である。これは関西全域に共通するわけではないようで、私の場合神戸大学に進学後、他地域の友人から「言葉が汚い」との諍りを受けたことさえある。そういうこともあって、少青年期の環境を離れ、ましてや大阪の大学などに奉職すると、この「…け」はいつの間にか舌頭から消え去っていく。中村さんも同様であつたようだが、私の府大赴任から間もない頃、二人で話し込んでやや興が乗った際に「そなん、田中君あれやんけ」と、「…け」を使い始められのた。

その時、何とも言えない親しみを感じたことを、三十年近く経つた今もよく覚えている。以来中村さんが、大学で他の人を相手に「…け」を使う場面に遭遇したことはないが、本人がお気づきか否かはともかく、私相手にはしばしば「…け」が登場する。そのことは取りも直さず、中村さんが私を後輩として（身内）に数えて下さっているのだな

と、勝手に解釈し、秘かに喜びとしたものである。もちろん、年下の私の方から「…け」を使うことはあり得ないのではあるが。

中村さんの本来のお仕事である、哲学・倫理学・思想史方面については、私のよく語るところではない。ただ、ラテン語をよくすることを仄聞するだけで、ただただ畏敬するのみであった。一方、中村さんのもう一方のお仕事である、洛北の精神医療史や民俗誌に関わる事象については、しばしば興味深く窺ったことがある。ご本にもなっている納豆餅と雑煮の話や、注連飾りのお話など、民俗学に関心を抱く私にとって、大いに刺激を受ける楽しいものがあった。また時には、活字化されていない〈崩し字〉表記資料について、ご下問を受けることもあったが、古典文学を専攻する者として、何ほどかのお手伝いが出来たのだろうか。

近時、中村さんのフィールドは、奄美や沖縄にも広がっていたようで、なかなか人の行かない宮古の離島＝大神島に行かれたという話は、たいへん羨ましく伺ったものである。中村さんは自動車を運転されないそうで、ある時「田中君も沖縄に興味があるんだから、一緒に調査に行って運転手をやってくれないか」とお誘いを頂いたこともある。夢みtainお話で、すぐにでも同行を願いたいと思ったものであったが、校務のしがらみもあって未だ実現していない。

往時茫茫、中村さんとの思い出を記し出すと、一九九〇年代のことから近年のこととまでが、交々まざまざと頭を過ぎる。…ということは、二年後輩の私の上にも中村さんの上にも、等しく歳月は確実に流れたということである。長身瘦躯、いつも若々しく見えた中村さんも、近時多少の白髪が見られるようになった。そして、遂にこの三月、定年の期を迎えられる。知的好奇心旺盛でフットワークの軽い中村さんのことゆえ、退職後も隠居・遁世されるとは思えない。今後とも、ますますのご活躍とご健勝の程を、僭越ながら後輩として祈念させて頂きたい。中村さん、長年のご精勤、本当にご苦勞様でした。

中村先生の思い出

平成30年度人間社会システム科学研究科人間科学文化形成論専攻修了

崔 笑 瑜

わたしは、知り合いの先生に紹介してもらい、2016年4月に来日してすぐ、中村先生の研究室へごあいさつに行った。次にお会いした時、先生は奈良へ連れていってくださった。先生は観光客が多い場所を避け、フジの花が咲く飛火野を案内してくださった。

先生は自然を愛し、諸学に通じておられる人だと思った。2017年4月に修士課程に入れていただいてからは、京都岩倉の歴史ツアー、先生が他大学の先生といっしょに実施しておられた丹波の調査などに参加させてもらった。自分だけでは行けない所へ連れていってもらえただけでもうれしかったが、現地を実際に見て歩き、地元の人から話を聞き、古写真について地元の人から説明を受けるという経験をできたことはありがたかった。先生はそうして得た知見、文献から得た知識をもとに、自然とのかかわり方の変化、暮らしや社会の変化について考えておられるようだった。記録されていないこと、あるいは記録されていても文字では伝えられないことを古写真は伝えることができる。そしてその情報は聞き取りによってふくらんでいく。忘れられている、あるいは隠されている歴史をこの方法によって明らかにしていきたいとわたしは思った。中村先生に出会えたことは、わたしにとって心の財産である。

懐深さと軽やかさとハルモニアーの人

平成5年度大学院総合科学研究科修士課程思想文化学専攻修了・國學院大學教授

木原志乃

ご退職をお迎えになり、心よりお祝い申し上げます。これまでを振り返り、何より思い出深いのは、わたしの学びの出発点である大学院修士課程で、ラテン語を丁寧に添削くださったことです。授業外で『ラテン広文典』の練習問題全ての添削ですので、今思うとなんと恵まれた学生であったことかとしみじみ感謝の気持ちでおります。そして先生のご専門分野である中世の哲学者ニコル・オレームの原典講読に参加できたのも、大変貴重な学びの機会でしたし、ケンブリッジ大学へVisiting Scholarとして訪れた時も、本当にたくさんのアドバイスを先生からいただきました。色々な方々と繋がることができ、滞在が楽しいものとなったのも、先生のおかげでした。先生は国内外問わず多くの研究者たちと軽やかに交流を持ち、語学の壁や文化の壁を感じさせず、学問や人をハルモニアー（調和）で結び合わせる、そんなお人柄でした。

そして最近も、先生のお人柄に改めて感銘を受ける機会がありました。数年前、研究者数十名で大きなプロジェクトに取り組みまして、中村先生がそのチームを取りまとめる代表でした。先生の醸し出す雰囲気、過酷な仕事の重圧を軽くし、メンバーは皆救われていました。また、何度か危機的な状況に陥った時も中村先生は動じず、自分が頭を下げれば済むものだったら何度でも下げるよ、とさりりと仰って下さいました。そんな

中村先生の懐深さに、その時のメンバーは皆胸打たれていました。極めて思い出深いお仕事をご一緒できたことに、そして昔から変わらずあたたかくご指導いただきましたことに改めて感謝の気持ちでおります。有難うございました。

わたしが歩んできた道

中 村 治

退職を目前にして、相変わらず仕事、論文執筆、そして研究室の整理に追われている。この状態はどうやら退職まで続くようである。しかしそのどきくさにまぎれて、大阪府大をこっそり去っていかうと思っていた。ところが友人が、「君は「過去を振り返り、どういう道を歩んできたのかを知らなければ、これから歩むべき道がわからない」といつも言っているではないか。君は自分の過去を振り返り、自分が歩んできた道を整理してまとめ、それを『人文学論集』に載せて、去っていくべきだ」と痛いところをついてきた。人にはそのように言っておきながら、自分では何もしないというのは、やはりよくない。しかし時間も紙幅も限られているので、わたしが歩んできた道を簡単にまとめることで、おゆるし願いたい。

わたしは小学生の頃からなぜか地理と歴史が好きになり、中学生の頃には、「大学に入れば地理か歴史を研究したい」と思うようになり、高校生の頃にはもう少し限定し、「東洋史か国史を研究したい」と思うようになっていた。

大学に入って文学部の2年生になる前のことであつた。東洋史の勉強のため、サンスクリットか中国語を勉強しようと思い、知り合いの米澤有恒さん（当時、美学の助手）に相談した。すると米澤さんは何を思つてか「ラテン語をやってみないか」とおっしゃつた。それに対してわたしは「ラテン語？ そんなもん考えてみたことはありませんけどね。米澤さんが言わはるのやったら、いいんでしょう」と軽々しく答えてしまったのである。米澤さんが勧めてくださった水野有庸先生のラテン語4時間コースの授業は、火曜と土曜の4時10分から5時40分ということになっていた。ところが実際に出席してみると、授業が終わるのは9時過ぎ。出席している学生には、わたしのような2年生は少なく、大学院生が多く、他の先生が教える2時間コースでラテン語を一通り習得した後、大学院生になってから水野先生の4時間コースに挑戦するという人が多くいた。そのような人は、必要な科目でもないのに知人に勧められたから出席しているだけのわたしとは、気構えが違つた。わたしのラテン語理解は進まなかつた。宿題をして

いって、黒板に書いても、「誰だ、こんなことを書いたのは！わたしの授業に出ている者なら、こんなことは書かないはずだ！」といった調子で叱られればなし。負担があまりにも大きかったので、こらえきれず、5月末に米澤さん宅を訪問した。すると米澤さんは、わたしが何も言わないのに「どや、しんどいやろ。やめるのやったら、傷が浅い今のうちやで」とおっしゃる。そうなることを予想しておられたようである。「試されているのだ」と思うと、やめられなくなったのであった。しかしやめなかったからといって、わたしのラテン語力があがったわけではない。もっとも、苦しんでいたのはわたしだけではなくたようである。大半の学生は夏までに脱落するが、秋になると、残った学生からもおかしくなる者が続出し、一人、また一人と去っていった。12月になると、いよいよ試験である。わたしは、それまで辛抱して出席し続けたのだから、単位ぐらいはもらえるだろうと楽観していた。ところが12月と1月にある合計4回の試験で、わたしの平均点とわたしの最高点の平均が60点以上にならないと、単位をもらえないという。それだけではなく、「破門」されるといううわさであった。名前はもちろんのこと、わたしに関する一切が水野先生の記憶から消去されるらしい。試験は散文和訳1問、韻文和訳1問、羅作文1問、英訳されたラテン詩の羅訳1問の計4問。持込み不可。1回目の試験を受けた。いずれも初めて見る文ばかり。試験時間は無制限というが、よくわかっていないわたしには、時間がいくらあっても、意味がなかった。次の授業時、先生はよくできる院生などには「よくできていた」というように、だいたいの点数をおっしゃったが、わたしに関しては何も言わず、悲しそうな顔をなされた。覚悟していたとはいえ、わたしは青くなった。わたしは東洋史か国史を志望して大学に入ったが、さまざまな授業に出るうちに、自分が何を勉強したいのか、さっぱりわからなくなっていた。膨大な時間をラテン語に費やしたので、ラテン語関係の分野に進めばよいのかもしれないが、そのラテン語はほとんどものになっていなかった。「これほど熱意を込めて教えてもらっていながら、ラテン語の単位をとれなければ、これから先、何をやってもだめだろう」という気がした。そう考えると、「できるだけのことをしてみよう」という気になったのである。それからは寝ても覚めてもラテン語ばかり。12月の2回目の試験のときはまだだめであったが、1月の試験の時にはなんとかよい点を取れ、かろうじて合格できたのであった。その後、報告を兼ねて米澤さん宅を訪問し、水野先生の授業に参加することをなぜ勧められたのか、尋ねてみた。すると米澤さんは、御自身も水野先生のラテン語の授業に参加して苦しんだ話をされ、「はくは水野先生の授業に出て、学ぶ姿勢をたたきこんでもろたと思う。君も水野先生の授業に出たら、学ぶ姿勢をたたきこんでもらえるやろうと思うたのや」とおっしゃった。わたしは、ラテン語の力がつ

いたとは思わなかったが、たしかに、学ぶ姿勢を水野先生の授業において見せてもらったという気がした。

3年生になる時、専攻を決めるのであるが、西洋中世哲学史に進むことにした。2年生の時にラテン語に時間をあまりにも多く使ってしまったということもあるが、キリスト教に恐ろしさのようなものを感じたということもあった。わたしは、アメリカのプリンストン大学で教えていた伯父が「プリンストンに来たらいい」と言ってくれていたので、1年生の時に英会話を習いに行った。高校で習った英語の先生に勧められた英会話学校はキリスト教系で、先生の一人はスペイン人神父であった。その神父がある時「キリスト教に関心がないか」と尋ねた。外国人がまだめづらしかった時代のことである。本場のキリスト教を学べるのならば、「関心がある」と答えてしまった。それからキリスト教の講義が一对一で始まった。しかし「日本人を救ってやる」という態度で日本に来ている彼が教えるキリスト教はつまらなかった。キリスト教徒でなければ人間ではないと思っている彼に接しているうちに、「キリスト教を理解しておかないと、たいへんなことになる」と思ったのである。そんな神父が教えるキリスト教とは異なり、大学で山田晶先生が教えるキリスト教は興味深かった。それで、山田晶先生のもとで西洋中世哲学史を学ぶことにしたのである。

大学院修了後、しばらく英語の非常勤講師暮らしをした後、1986年に運よく大阪府立大学総合科学部に職を得ることができた。総合科学部は文理融合型の学部であり、「総合ゼミナール」と称して、理系の人といっしょに行う授業があった。その授業では、理系の人にも関心を持たせることができるように話を組み立てることが求められた。「芸域をちょっと広げろ」と言われたのである。また、わたしが属した西洋文化講座の白井成道先生からは「ここでは授業さえしっかりしていただければ、あとは何をなさってもかまいません」とも言われた。文学部の西洋中世哲学史講座に属していた時には、聖アウグスティヌスとか聖トマス・アクィナスの思想を理解することを主に求められ、息苦しさを感じていたが、大阪府立大学総合科学部の雰囲気は、わたしには新鮮であった。

1988年、客員研究員としてケンブリッジ大学に滞在する機会を得た。キリスト教社会がギリシア思想を受け入れて独自の思想を形成していった過程に関心を向けるようになっていたわたしは、受け入れてくれたジョン・マレンボン博士の研究室へあいさつに行き、「1277年における219の命題の断罪がその後の思想史に及ぼした影響について研究したい」と述べた。するとマレンボン博士は「その問題はもう解決された。君は税金を使って研究させてもらっているのだから、学問の進歩に貢献する研究をしなければならぬ」と言ったのである。出ばなをくじかれた思いがしたが、学問の進歩ということ

より強く意識せざるを得なくなったのであった。

西洋中世思想史の領域で学問の進歩に貢献できるとすれば、写本を見つけ、解読して、紹介することが考えられる。しかし写本を新たに見つけることなどめったになく、解読する作業はとて難しく、うまく解読できても、大して意味のない文書であることがわかると、がっかりする。わたしは西洋中世宇宙論の領域に的を絞り、中世科学史関係の写本の翻刻が進められていたアメリカのウィスコンシン大学に1997年後半、そしてイェール大学に1998年前半、客員研究員として滞在し、翻刻された文書の解釈で勝負することにした。具体的には、14世紀フランスのニコル・オレームが、地球中心的なアリストテレス的宇宙像を思い描きながらも、小さな地球が自転の方が巨大な天界が一日に一回転するより合理的であるとする説を積極的に唱えていたのに、最終的には巨大な天界が回転するという天動説を採ったのはなぜかという問題の解釈に、挑むことしたのである。当時の通説は、インディアナ大学のグラント教授のもので、オレームは理性的には地球自転説に従ったが、キリスト教に従い、天動説を採ったというものであった。わたしの考えは、もし地球が自転しているなら、真上に投げ上げた石が手元に戻って来るのはなぜかをアリストテレス自然学では説明できなかったから、天動説を採ったというものであった。つまり、天動説が理性的にもっともらしいと思ったから、天動説を採ったと考えたのである。ウィスコンシン大学の先生たちの反応は、「君の説の方がもっともらしく思えるけど、大御所のグラントがあのように主張しているからねえ」というものであった。日本に戻ってくると、中世哲学会の人たちは、「ニコル・オレーム」と聞くだけで拒絶反応を示し、「君はいつになったら聖トマス・アクィナスの思想に戻ってくれるのだ」と言われてしまった。わたしはかつて人文科学研究所の先生に「君たちの論文の読者は平均すると1.5人だ」と言われたことを思い出した。「1」というのは自分のことで、「0.5」というのは「読む人がいるかもしれないし、いないかもしれない」ということを意味するらしい。読んでもらえるかどうかかわからないようなもののために研究しているのかと思うと、悲しかった。

その少し前、わたしは娘が通う京都市立岩倉北小学校の創立20周年記念事業として地域誌制作を依頼された。新住民は、自分が住む所がどんなところか知ったうえで住みたいと思ったらしく、記念事業として地域誌制作が決まったようである。わたしに制作依頼が来たのは、岩倉北小学校がわたしの母校・明德小学校の分校としてできる前からわたしが岩倉地域に住んでいたからということであつたらしい。わたしは全く専門外であったが、その機会に、宅地化が進む前の岩倉の風景と暮らしを写した写真を住民から集め、かつてどのような暮らしがそこで営まれていたのか、それがいつごろからどのよ

うに変化して、今ようになったのか、その結果どのようなことが起こってきたのかを書いて、『洛北岩倉誌』（1995年）として発刊した。これはとても評判になり、地域住民が大いに喜んでくれた。大学の上司は「おまえのしていることは、単なる地域史やないか」と言ったが、地域を深く見つめることなくして大きな問題には出会えないはずである。わたしは、その後、さまざまな地域の人の協力を得て各地域に眠る資料、とりわけ写真資料を整理し、それを手がかりにして聞き取りをすすめ、地域の共有財産として残していくという作業に多くの時間をさくようになっていった。学問の進歩に貢献しようと思えば、新しい研究方法を生み出すか、新しい材料を見つけるかであろう。新しい研究方法を生み出すのは容易ではないが、新しい材料を見つけるのはそれより容易に思える。地域のことはだれも手をつけていないことが多いからである。「専門外だから研究してはならない」ということはないはずである。それぞれの専門家がそれぞれの視点から見えてくる地域像を持ち寄ると、より豊かな地域像が浮かび上がってくるであろう。わたしはといえば、地域のことを調べているうちに、「岩倉では精神病患者を一般家庭で預かって看護していたが、それをできたのはなぜか」、「京都の京北を中心とする地域では、雑煮を食べず、納豆餅を雑煮代わりに食べる家が見られるが、それはなぜか」、「京北を中心とする地域の周辺では餅だけの味噌雑煮を食べる家が見られるが、それはなぜか」、「大阪でも京都でも市街地近辺に牛の牧場があったのはなぜか」といった問題に出会うことができたのであった。

わたしは「ご専門は何ですか」とか、「中村さんのなさっていることはご専門とどんな関係があるのですか」と尋ねられることがよくある。わたしの専門との関係を問われても、困ってしまうし、そもそもわたしの専門は何か、わたし自身もわからなくなってしまっている。「ここでは授業さえしっかりしていただければ、あとは何をなさってもかまいません」と言われたこと真に受け、その時、その時に関心を持ったことに大きなエネルギーを注いできただけに思う。そんな生き方をできたのは、家族、同僚、職員、学生の支えがあったからであり、幸せであったといってもよいであろう。この場を借りて、感謝したい。これからは家族、そしてこれまでさまざまな地域で出会ってきた多くの知人を大切に、それぞれの地域の共有財産をふやしていく作業に楽しみつつ参加し、生きていきたい。

退休される大形徹先生を送る言葉

大 平 桂 一

大形先生に私が最初にお会いしたのは、1990年代、まだそのころは存在していた府立大阪女子大学が、当時交流していた北京大学歴史系の先生をお招きして開いた講演会が府立大学で開催され、その懇親会の席上であった。大形先生は今よりずっと黒いお鬚を蓄えておられ、第一印象は「ウンベルト・エーコそっくり！」であったと記憶している。

退休する先生を送る言葉には大学の合併話が登場するのが何故かルーティーンになっているが、2000年代の半ば、府立大学と女子大学が合併すると、女子大学の教員は府立大学と女子大学両方で授業をするため「彷徨えるオランダ人」と化した。つまり府立大学で授業をする時には研究室がないために弁当を食べる場所もなくなったのである。私は当時仕方なしにA1棟の中庭にあった池の端でただ一人弁当を使っていた。それを見かねた大形先生が声をかけて下さり、私はA1棟の4階に研究室ができるまで、同3階にあった大形研究室の食客となったのであった。これは文字通りの「食客」で、ご存知の通り大形研究室にはガスが引かれ、調理道具が完備し、ありとあらゆる食事が供され、私も幾たびとなくお相伴に預かった。出入りする人々が持ち込む手作りの餃子や叉焼、果物そしてスイーツの類など、「應有具有」という言葉の通り、あらゆるものが揃っている状態であった。私は授業前後の待ち時間に大形研究室に居座って美食を極め、そして電話番号を務めた*2。当時大形研究室に電話をされた方は、私の「はい、大形研究室です。」という美声を何度も聴かれたはずである。今でも私に「大形先生」と呼びかける人が多いのはそのせいであろうか？

大形研究室にはさっき書いたように、色々な人々が入り出していた。学部生、大学院生、書道部の部員、公開講座の社会人の受講生、来年度の大学院入試を受けようとする外国人学生、大形先生のもとで学位を取得しようと奮闘する他大学の先生たち、卒業生それから府立大学の中国語非常勤教師、その子供さんたちやその親戚の方々、紙幅の関係ですべてを網羅することはできないが、大形研究室はとにかく多種多様な人々が入り出していた。こう書いてくると、ご存じない方は大変な混乱状態を想像されるかもしれ

*2 大先生に電話番号など、おそれおおいことでした。ありがとうございました。最近の学生さんは、「電話が鳴ってます」と隣の演習室まで駆け込んできたり、電話に出てくれても相手のお名前も聞かず、用件も聞かず、ということが多かったです。

ないが、断じてそうではなく、私は当時大形研究室の在り方を「orderly chaos^{*3}」と称していた。「秩序あるカオス」は、ひとえに大形先生が中心にいることによって維持され続けてきた、まことに居心地のいい空間であり、そこは深遠な哲理から、中医学、あまり知られていない中国の地方料理、中国で流行している歌曲の話題まで、日本語、標準中国語、中国の多様な方言等々で森羅万象が議論される、まさに異次元の空間（月並みな言葉だが正に文字通りの）といえる場所であったし、先生の退休があと3か月に迫った現在までそういう場所であり続けている。

大形先生は中国の神仙思想を中心の研究テーマとしたうえで、中国や日本の文化事象を遠くアジア、インド、中東地域まで拡大して考察する広大な視野の持ち主でもあり、斬新な論文を長期間にわたって執筆し続けてこられた、希有の研究者と言えるであろう。日本道教学会の会長を務められ、多数の研究者を育てられたことは私が説明するまでもなく皆さんご存知の通りである。またご本人が神仙そのものではないか、と噂されるだけあって、先生の周囲には神韻縹渺とした雰囲気常在に漂っており、私は時々ストーブに当たりに行くように大形先生のお部屋に迷い込むのであった。このような暖かな空間が先生の退休以後は消滅してしまうというのは府立大学にとってまことに巨大な損失と言わざるを得ない^{*4}。

最後に一言、これまで長い間にわたり、公私ともに本当にお世話になりました。あらためて御礼申し上げます。

七八斎と大形学

平成27年度～29年度日本学術振興会特別研究員PD・金沢学院大学専任講師

佐々木 聡

筆者は2015年4月から三年間、日本学術振興会特別研究員PDとして大形徹先生の研究室に受け入れて頂いた。引っ越しを終えた3月末に初めて大形研究室を訪れたが、そこで雑然と並んだ物の多さに絶句することとなった。ベテラン中国学者の研究室がおびただしい書籍に占拠されているのは珍しくないが、大形先生の部屋は、研究書・資料の

*3 千葉に住んでいる客員研究員の高田宗平さんが、はじめて、うちの研究室を訪れたとき、「久しぶりに「カオス」を味わいました」とおっしゃったことを想起しました。「カオス」は混沌で、それは『莊子』の渾敦なので、「カオス」に目鼻をつけなくてもいいのだと思っています。

*4 ほめすぎです。

類はもちろん、辟邪呪具や民族楽器、書道用具、篆刻用具、印材、額縁、茶葉、食材・調味料・調理器、玩具、古びたトランクなどが所狭しと並んでいたのである。「ようこそ、私の研究室『七八齋』へ」、きょろきょろと柵を見回す筆者に大形先生はにやりと笑って言った。まさに「^{ごちやまぜの}乱七八糟的」研究室であった。

それから三年間、筆者は研究の相談や学会事務局の仕事*5などで（大形先生は当時日本道教学会の会長をされていた）、七八齋に通うことになるのだが、いろいろな意味でふつうの研究室とは違っていた。まず先生が落ち着いて本を読んでいる姿をほとんど見た記憶がない*6。これはある意味では日本の大学教員全員がそうだとと言えるかもしれないが、そもそも大形先生の場合、学生やお客が来ると決まって自分でお茶を淹れ、昼夕には料理を振る舞い、食後のデザートまで出して下さる。学生たちもそれを知っていて毎日やってくるので、多忙な校務とあいまって先生の日常は一息つく暇もなかった。一方で、先生はしばしば制作活動もなされた。書道部の顧問を務められていたので、展示会のたびに新作を書いたし、ときには「自画自賛です」と笑いながら絵を描き、賛をつける。ときおり学生の求めに応じて篆刻をされることもあった。先生はとても器用で、どうやら何でも自分で作るのがお好きらしい。学会連絡の折には、毎回便箋から作り、直筆の送付状を付けられ、とうとう学会賞の賞状も会長自ら全文を書いてしまわれた。編集に携わった論集で自ら表紙をデザインされたものは数多いし、何より、先生の代表作の『魂のありか：中国古代の靈魂観』（角川書店2000年）もよく見ると表紙の絵に「邢澈 [七八]」の落款がある。

七八齋の日常は終始このような調子であった。狭い室内は雑多な物であふれかえり、研究室なのか、アトリエなのか、台所なのかよく分からない有様であった。

ちなみに先生は基本的小しなおしゃべり*7なので、もくもくと作業に没頭することはなく、野菜を切り、筆を執るかたわら、いつも冗談や笑いが絶えなかった。大形先生の雑談はいつもどこかで研究と繋がっていて、聞き流してしまうとただの与太話だが、「あれ、いまの話はひょっとし



図1 大形徹『魂のありか』表紙上部

*5 本来の学会の仕事以外に、いろいろとお世話になりました。

*6 確かに。

*7 佐々木さんの5分の1ぐらいです。

て」と思い、先生の著作を見直すときちんと論文に書かれてあるということがしばしばあった。「冗談ですよ」と笑う先生の口癖^{*8}は、一種の韜晦術だったわけである。

さて、こうしてかつての日々を思い返してみると、七八齋と大形先生の学問との繋がりもなんとなく分かってきたような気がする。思えば、大形先生の研究には、様々なモチーフが登場するが、パルメット紋やフンコロガシ、蛇、船、被髪など、一見すると書き散らかしたように



図2 邢徹「得霜露之氣而成熟」

も見えるばらばらの議論が、魂や復活再生といった枠組みの中にすくと納まっている。代表作『魂のありか』がまさにその好例であろう。七八齋もあれほど雑多なものであふれているのに、意外にも大形先生は部屋のそこかしこにきちんと収納してしまう。おもしろいことに、こうした独自のバランス感覚は、先生の作品にも窺える。右上の図2は、筆者がかつて先生から頂いた作品である。良寛に私淑する先生の文字は、端正な楷書の規範とは対極的なくだけた字なのだが、アンバランスな文字同士は絶妙に調和し、書画全体で見ても、濃淡のある柿の色合いと相俟って、不思議とこちよい雰囲気醸し出している。

そもそも、大形先生の学問は、ご本人も常々言われているように、あまり実証主義的ではない^{*9}。古代中国の話をしていながら、類例がマイクロネシアやヨーロッパあたりまで飛ぶなんてことはザラである。これは大形先生の持つ人類史的な興味がそのまま表れたものなのだろうと筆者は理解している。それは実証主義的ではないかもしれないが、見方を変えれば、いくつもの可能性を示してくれる学問と言えそうだ。「冗談ですよ」

*8 本当の話が、いつのまにか冗談にスライドしてしまうことが多い。そのため、学生さんが本気で冗談を信じてしまい、他に吹聴していることが多々あった。これはまずいと、「人に喋ってもいいけど、私から聞いたといわないでね」というようにした。けれども、その意味を理解しない人が多いことに気づき、近頃はすなおに「冗談ですよ」というようになった。

*9 文献のどこにも書いていないことを実証しようとするのが文系の学問だと思う。どこかに書いてあれば、「〇〇に書いてあります」で、おしまい。最初はかけはなれた向こう岸にあるようにみえる。それに対して、さまざまな方面から対象に迫っていく。だんだんと距離が近づいてくる。そして最後は、「えいっ」と飛びこえる。でも時々、着地で滑ってずぶ濡れになります。

という先生の言葉は、この可能性のことを言っているのではないか。絶対そうだとも言えないけれど、よく考えてみるとそういうこともあるかもしれない——大形先生の論述には、そう思わせる絶妙なバランス感覚があるのである。

ところで、意外なことに、大形先生の研究には、易や陰陽・五行への言及があまり多くない*10。これはおそらく先生の学問の主眼が、文字と形象の間をうつろい、イメージの繋がりを浮かび上がらせてゆくことにあるからだろう。要するに、対象をありのままに見るアナログ思考の性格が強いのである。それゆえに森羅万象を絶えず数理に変換してゆく易や陰陽・五行のようなデジタル思考とは対象的である。例えば、比較宗教史研究者の菊地章太先生は、中国の伝統宗教を儒教・仏教・道教の「シンクレティズム（ごたまぜ）」だと表現した（『儒教・仏教・道教：東アジアの思想空間』講談社2008年）。「ごたまぜ」から取り出したイメージをありのままに理解しようとすれば、それはやはりアナログ思考となろう。七八歳が雑多な物で「ごたまぜ」なもの、それがなんとか収納されているのもアナログ思考の体現と見ることができるかもしれない。

以上、僭越なことを好き勝手に書いてしまったが、何とぞ御容赦頂きたい。筆者としては、大形先生の元で何を学び、その学問をどのように理解したのかを述べたつもりである。実は原稿の依頼を頂いた段階では、大形先生と回ったタイやネパール、パリでの調査の話の方がよいかとも考えたが、いよいよ御退職が近づき七八歳がなくなってしまうと思うと、どうしてもあの場所での思い出と先生の学問について書きたくなったのであった。

最後に少し筆者自身のことを述べさせて頂きたい。筆者は大形先生の御指導*11のお陰もあって、特別研究員の任期が終わると同時に今の大学に採用となった。着任後はこれまでの経験を踏まえ、研究室になるべく必要なものばかりを置くよう心がけている。しかし、筆者もやはり実践的な研究や教育が好きなので、着任して二年間で、気がつけば、刊本や抄本、版木、竹簡・木牘、お札、鏡、魔除け、漉き紙、書道・篆刻用具などがごちゃごちゃと増えていた。典籍関係は、東北大時代の恩師磯部彰先生の影響だが、それ以外は明らかに大形先生の影響である。そもそも一緒に海外調査にお供して収集したのも多い。日々増えてゆく雑多な資料を眺めると、ふと、うちもいつか「七八

*10 『形の文化事典』に「陰陽」の項目を執筆。東方書店で『合陰陽方』を訳注、同『胎産書』に胎児と五行について執筆。武田時昌（編）『陰陽五行のサイエンス思想編』に「陰陽と房中術」を執筆。『儒教の本』に「五行論と革命思想」、「易経と太玄経」を書いてはいますが、確かにおっしゃる通りかもしれません。

*11 佐々木先生は研究員だったので共同研究をしていました。指導などんでもありません。

翫」になるのかな、という考えがよぎる*12。もちろん筆者には大形先生のような広い見識も絶妙なバランス感覚もないけれど、「ごたませ」な中国文化への志向はこれからも持ち続けたいと思う今日この頃である。

*12 それは危険です。

特集 大形徹老師と私

「いるよ」



平成 17 年度社会福祉学部卒業・書道篆刻研究会

白井（宮脇）真由^{*1} 作

大形研洞天記

令和元年度大学院現代システム科学研究科人間科学専攻中国思想

大形先生弟子、巴蜀人董濤

大形研究室，簡稱「大形研」，先生自號「七八齋」、「半僊窟」。多數時是「大形藝術沙龍」，留學生則呼之「大形食堂^{*2}」。

「七八齋」，亂七八糟也。方寸之室，藏書萬卷。書櫃亦兼廚櫃，鍋碗瓢盆，醬米

鹽茶。還有萬國古今稀奇玩物，星佈其間。弟子訪客，出入皆摩踵如行窟中，深隧曲徑，方見洞天。

先生之學，聚焦黃老，卻不拘泥東亞故紙。內亞埃及、碑石圖畫、出土民俗，萬年時空皆收視野內。治學論道，乃洞天第一層也^{*3}。

先生工金石書畫，且甘俯後進，循循善誘。十人來樂之，一人來亦樂之。「大形藝術沙龍」，此洞天之第二層也。

每至午夕，先生便曰「隨便吃點吧」。和中洋食，旋刻而至。念吾輩拮据，常以時鮮饗之。備菜洗碗，皆師親為，從不以為意。「大形食堂」，此洞天之第三層也。

賢賓絡至，必有高論。雖身處斗室，卻可信遊八荒。談至興處，千古帝候，宇宙池塘，皆不在話下。此洞天又生變化，第四層、第五層直至無窮也。

仙者，操縱時空，出入自如者也。觀此洞天，大形師非仙者何？

大形徹先生のご退職に寄せて

平成 22 年度人間社会学部人間科学科中国思想卒業

横大路綾子

*1 真由さんについては、白井敏敬さんの項参照。私（大形徹）が顧問をしていた書道篆刻研究会の学生。天才なので何も教えていません。読売新聞に「さんすくみ（蛇がナメクジを恐れる理由とは?）」の解説を頼まれたとき、カットを描いてもらいました。

*2 日本人の学生はこども食堂と呼んでいました。毎月のアルバイト料をまたたくまに使果たし、残りの日々、いちにち 300 円生活を余儀なくされていた日本人の学生がよく利用していました。

*3 董濤さんとはいくつか共著の論文があります。私が中国で発表するときも翻訳してもらっています。董さんが和歌山のロータリーの奨学金をもらっていた時、講演したことがあります。そのとき蜜柑狩りをさせていただきました。

大形先生の研究室「半仙窟^{*4}」を初めて訪れたのは、大阪府立大学一回生^{*5}の時だったと記憶している。爾来卒業に至るまで、大学にいる時間の大半を半仙窟で過ごしたと言っても過言ではないように思う^{*6}。ご退職に伴い、大形先生は大阪府立大学の半仙窟を去られることになる。帰る場所がひとつなくなったようで寂しい気もするが、先生が恙なく長年の勤務を終えられることにお慶びを申し上げたい。

半仙窟は、学部学科はもちろん、国籍の垣根も越えて常に多くの学生で賑わっていた。それはひとえに、誰に対しても穏やかに接し、受け容れて下さる先生のお人柄を皆が慕い、おのずと居心地の良い空間が生まれていたからであろう。ここで生まれた出会いはかけがえのないものとなった^{*7}。これからも、先生のおられるところにはまた新たな半仙窟が生まれることと思う。大形先生の、今後のご活躍とご健勝を心よりお祈りしております^{*8}。

感謝辞

平成 30 年度人間社会システム科学研究科博士前期課程
中国文学修了

向純白

尊敬の大形老师：您好。

美好的留学生活终于还是要结束啦，虽然对于大阪的老师和同学们还有很多很多不舍的地方。2016年我初次到大阪府立大学，开始了新的留学生活，这三年宝贵的留学生涯中，在生活和学习方面承蒙您许多照顾和鼓励。正因有您这样温和又细心的老师，我才得以度过留学期间各种各样的难关。天下无不散之宴席，但在大形老师的研究室和大家一起读书，品尝美味料理的经历，都会成为我今后人生中宝贵的记忆。我即将毕业回国，祝您和您的家人在以后的生活中身体健康，万事如意！有缘再会^{*9}。

大形徹先生

平成 17 年度経済学部経営学科卒業

板谷靖子

大形先生、この度はご退職おめでとうございます。思い返せば、経済学部生であった私が先生の講義を履修していたのは 2002 年のことです。なんとそれから 17 年（現在 2019 年）も経過してしまっただすね！約 20 年！びちびちの大学生だった私もいつのまにやら中年の仲間入りするは

*4 半仙は仙人のなりそこない。私が仙人の研究をしているので、いつのまにかその名がついた。「はんせんくつ」。怪しい響きしかない。昨年の白鷺祭の書展で隷書で「半仙窟」と書きました。かずきさんが気に入って書道篆刻研究会に寄付された上で持ち帰られました。何に使うのだろう。

*5 推薦入試の面接をした村田京子先生が、「大形さんのところに来たいという学生さんがいましたよ」と、おっしゃってくださいました。「そんな人がいるんだ…」。正確には中国のこと、むしろ東洋史が勉強したいということで、京大の東洋史に進学しました。横大路さんと共著で「漢字」という熟語の初出について調べましたが、仏教関係を抜かして検索したため、大失敗の論文となりました。

*6 彼女は日が暮れると留学先の上海で買ってきた琵琶をボロロンと弾いていました。下宿だと弾けないのだから。わたしに聴かせるためではありません。夜な夜な暗い廊下にどこからともなく琵琶の音^おが…。

*7 ここに集っていた人たちは皆、仲良くなっていました。

*8 横大路さんの紹介で京都の文化博物館で連続講座を開かせていただいた。

*9 2017 年に湖北省の三峡大学で世界漢字学会が開かれたとき、帰省中の向さんが友人を連れて会いに来てくれました。武漢に戻っていたアメリカ在住の周迅老師もまじえ、盛り上がりしました。

ずです。

長きに渡り本当にお疲れ様でした。

さて、他学部生の私が当時何故先生の研究室へお邪魔するようになったか記憶が定かではないのですが、いつ行ってもお茶とお菓子が出てきて、先生の誰に対してもウェルカムな態度と研究室のよくわからない居心地の良さに引かかってしまったからでしょうか（研究室それ自体は全く快適な空間ではないに関わらず、です！机上はたいいごちゃごちゃ、室内通路は本棚に圧迫されて一人一人通るのがやっと、と、お世辞にも使い勝手の面で素晴らしい部屋であったとはよう言えません）。このような部屋に反して、大形研究室の不思議な魅力に捕らわれてしまい、足繁く通った学生は他にも多かったのではないかと想像します。

研究室ではちょっと習字を試みたり、パスタをゆでてみたり、お菓子を食べ、お茶を飲んだり、たまに掃除¹⁰もして、そんななんてことはないことばかりしていましたね(笑)。今思えばそれがよかったのだと思います。

大学卒業後は20代前半に一度遊びに行かせていただいて以来、全く大学を訪れていなかったのですが、30歳を過ぎてひょんなことからまたしばしば研究室に遊びに行かせていただくようになりました。

たいい先生の研究室へ行くときはなんととはなしに疲れたときで、当時と全く変わ

らない研究室と、先生と、たまに他の卒業生や、研究室の大学院生と、他愛のないことを話したひとはなんとも穏やかで温かな時間を過ごさせていただきました。そこで活力を得て、また頑張るといふ感じで、とても感謝しております。

改築・増築ですっかり変わってしまった府立大学の新しい人間社会学部の棟内を、多分この辺に先生の研究室があるのではなからうか、とうろろうしていた中、暗い廊下で先生と再会したわけですが、あの時のやりとりを私は一生忘れないでしょう¹¹。

府立大学をご退職後も働かれると思いますが、くれぐれも体調にはご自愛いただき、今後も引き続き、末永く宜しく願っています。

友人に頼んで出してもらった出席カード

平成15年度総合科学部言語文化学科国文学卒業

劉時佳

今から十数年前、大学一回生の時、私は大形先生の授業¹²をサボって友人¹³に頼んで出席カードを出してもらいました。すべてがうまく行くはずだった。でも、あろうことか友人は私の苗字の漢字を書き間違えてしまいました。次の授業の時、先生は穏やかなお声で、劉時佳さんは来ていますか？と聞き、私は手をあげると、「あなたは自分の姓の漢字を間違えてますよ¹⁴」と微笑みながらおっしゃいました。後に知りましたが、先生は日本屈指の漢字研究家

*10 「こんないらないでしょう」と断捨離させられました。ただ、ご本人の部屋は散らかっているらしい。

*11 夜の八時ぐらいに薄暗い廊下でばったり。「先生、覚えていますか」と問われ、即座に「イタダニさんでしょ」と答えました。10年ぶりぐらいです。板谷さんは一般教養の「中国の思想」の受講生400名以上の一人でした。

*12 一般教養の「中国の思想（受講生が400人を越していたころ）」。

*13 留学生の「ショウビン」さん。

*14 おかしな文字を書いていた。「劉」の簡体字は「刘」なので繁体字が書けないと思った。授業の感想はセレクトしてA3用紙に貼り付け、コメントをつけて配っていた。

¹⁵でもあります。

研究室で筆を渡してくれて「何か書いて（描いて）」と先生はいつも言います。「何がいいですか」と聞くと、必ず「好きなことを」と仰います。これはまさに先生の教え方そのものです。ご自分が持っているすべての知識を学生達に提供し、学生それぞれのセンスで選択してもらって、その選択に応じて限りなく美しい調色ができるように導いてくれます。

この深くて広い先生の学生であることは本当に幸運だと思います。

乾杯！

平成17年度社会福祉学部卒業・書道篆刻研究会

白井敏敬

16年前。書道篆刻研究会への入会のため、研究室の扉を開け、大形先生と出会っていなければ、その後の私の人生は今と大きく変わっていたと言わざるを得ません。なぜなら、天井まで並べられた書籍の量に目を丸くしながら、私がまず顔を合わせた女性が、今の私の妻であったからです。

9年前。先生には、我々の結婚式へのご臨席と、乾杯のご挨拶、ご発声を賜りました。そして、さすがはユーモアあふれる大形先生です。ご挨拶は、まさかの我々の書道作品¹⁶の映像集を交えたもので、とても素敵なお祝いの「乾杯！」のご発声でした。あの時の驚き、感激は、生涯忘れることはないでしょう。

さて、今日は、大形先生にこれまでお世話になったお礼と、今後ご指導を賜りた

いという気持ちを込め、そして、先生の今後のご活躍、ご多幸、そして、たった今この記念号をお読みの皆様のご健勝を祈念して、甚だ勝手ながら、乾杯の発声をさせて頂きます。皆様、ご唱和ください。「乾杯！」

中国に留学するという決断

平成12年度総合科学部国際文化コース中国思想卒業

仲志乃生

大形先生、ご退職おめでとうございます。長年にわたりご指導いただき、ありがとうございました。

私が大形先生と初めてお会いしたのは、大学2年時、国語の教員免許取得のため、「書論」の単位を選択した時でした。大形先生と大形研究室の魅惑的な雰囲気、圧倒され、とんでもないカオスに迷い込んだ！と思ったのを覚えています。

大形先生にご指導していただいたことで、卒業論文¹⁷に熱意をもって取り組めただけでなく、中国に留学するという決断もし、その後中国で働くという貴重な経験もつむことができました。あの時、大形先生にお会いしていなかったら私の今の人生はなかったんだなあと思うと不思議な気持ちと感謝の気持ちでいっぱいになります。本当にご指導いただきありがとうございます。

たくさんの方に慕われる先生でいらっしゃるの、退職されても多くの方々に囲まれて過ごされることと思います。これからも、素敵なお人生を歩まれますよう心よりお祈り申し上げます。

*15 誤った認識です。

*16 大学祭のポスターの文字に白井君の作品が使われていました。真由さんは、たくさんのエスプリの効いた「絵ハガキ」。

*17 仲さんの卒論は蝙蝠。自然保護469号に「なぜ中国ではコウモリは“おめでたい”のか？」（財）日本自然保護協会、p30、2002年9月、「蝙蝠」自然科学協会9月号）の執筆を頼まれ、仲さんの論文から紹介。

親愛なるとん先生殿

平成 20 年度人間社会学部教育学修了

藤原（長野）裕子

ご定年おめでとうございます。長い間お疲れ様でした。あの魔窟¹⁸のような研究室でアジア（主に中国）の不思議なお菓子を食べながら、『山海経』に登場する妖怪¹⁹達のお話を聞いたことは、私にとって掛け替えのない学生生活の思い出です。あそこには本当に刑天²⁰や渾沌²¹が隠れているのではないかと今でも密かに思っています。

たくさんの人が先生の魔力と神通力に惹かれて集まってくるのでしょうか、先生の周りはいつも独特且つ面白い人²²で賑わっていましたね。もしかすると、あの中にも人の姿を借りた化け狸が一匹くらいは混じっていたのかも知れません。そんな摩訶不思議な雰囲気漂う研究室と愉快な仲間たちから愛される先生が、私は大好きです。

大阪府立大学の仙人が研究室という蓬莱から去ってしまうのは非常に残念ですが、これからもご活躍を楽しみにしています。また近いうちに餃子会²³でお会いしましょう。真心を込めて

大形老师之印象

平成 11 年度総合科学研究科人間科学専攻中国思想修了

曹岩

第一次见到大形老师，就被大形老师那稠密的胡须，以及浓密胡须下掩盖不住的满面笑意，还有那柔和纯粹而又能洞穿一切的眼神，平稳而清晰的语调所吸引。

之后随着自己语言的进步，越来越惊异于大形老师渊博的学识，钦佩老师非凡的才能。就那么看似随口的一句，随手的一笔，都是那么通俗易懂，又有着画龙点睛的神韵。

穿着格子西装，行走在大学校园的大形老师，不论是背着双肩包，还是单手提着充满年代质感的公文包，亦或拉着小旅行皮箱，都自然而然地散发着儒雅的文人气质，成为我们学生心中永恒的风景区。

知道需要从大形老师那里学习的东西太多。在最初的留学生活当中，大形老师除了在学习上指导帮助外，还在生活方面也尽心尽责²⁴，关心备至，至今回想起来还是满怀的感激。我是如此的幸运，在重新跨入校园学习的那几年里，能遇到大形老师这样的导师。

最后祝愿桃李满天下的大形老师即将开始的退休生活更加的顺心遂意，丰富多彩。

*18 半仙窟の異名。

*19 妖怪ではありません。

*20 頭がなく、お腹に顔があり、盾と矛を持ち、両手をあげて踊っているようにみえる。

*21 六足四翼でのつべらぼう。色は赤だったり黄色だったり。太陽神です。『莊子』内篇の最後の話も渾沌です。

*22 最たるものが、ふじはらひろこさんです。いつもすれ違いざまに笑いながら私のお腹の贅肉をわしづかみにしていました。私はふじはらさんの「腹すめんと（はらすめんと）」に耐えていたのです。

*23 「先生のおうちでギョウザを作りたい」からはじまった会はまだ続いており、こしはひろこさんのおうちにお邪魔しました。

*24 曹岩さんは当初、日本語がほとんどできなかつたのでとても苦労したと思います。大学院修了後は府大の近くに住んでいたため、大学祭の書展には必ず、たずねてきてくれていました。お嬢様たちが小学生の時には、放課後、しょっちゅう、研究室に遊びにきていました。友達も含めて五、六人が研究室で宿題をしているときもありましたし、サクセスとホルンの練習（相当やかましい）をしていたときもありました。

まあ、なんとかなります

平成 21 年度人間社会学部言語文化学科卒業・書道篆刻研究会

西村祐子

大形先生

ご退職を心よりお祝い申し上げます。

先生からの連絡はいつもいきなりで、お願いされることも締め切り間近のギリギリ感がある依頼ばかり。それにいつも頭を抱えていた私です。実のところ、この贈る言葉を考えながら、何を書いたらいいんだろうと悩んでいたりと。

先生は私の所属していた大阪府立大学・書道篆刻研究会で顧問をつとめてくださり、私たちは先生からたくさんのことを学びました。私が先生から教えていただいたことは、「大抵のことはまあ、なんとかなります」というおおらかな心を持つこと。

先生のおおらかな過ぎるところにちょっと困ったときもありましたが、先生のおおらかで面倒見の良い人柄はたくさんの人を惹きつけ、大抵のことをなんとかしてしまう不思議な力がありました。私たち学生は先生のこの不思議な力を「仙人の力」とこっそり呼んだりしていました。

スケジュールを立ててその通りに日々を過ごしていた²⁵当時の私は、心の余裕が足りない学生だったと思います。いまも予期していなかった先生に贈る言葉を考えてあたふたしているところはまだまだですが、「なんとかなりそう」なのであの頃²⁶より成長しているのだと思います。

大形先生。先生のその人柄とおおらかな心に教えていただいたことはこれからもずっと忘れることはないと思います。大学を退職されても、きっと「大形先生」とお呼びすることでしょう。

しーつん こと 西村祐子

大形先生が不在の時間でもいろいろな方が訪れる部屋

平成 16 年度総合科学部人間科学科社会学卒業・書道篆刻研究会

秋山高範

一年生のとき、「中国の思想」の授業を受けていたことをきっかけに書道部に入ることになり、四年間週末を含め多くの時間を大形先生の研究室で過ごすことになりました²⁷。日中から多数の方が出入りし、大形先生が不在の時間でもいろいろな方が訪れる部屋²⁸で、特に5限後になると、スパゲティや水餃子をゆで、部屋にいる方々と談笑する交流の場となっており、私も多くの方と交流する機会を得ることができ、ありがたい経験となりました。卒業から14年経ちましたが、直近の訪問時も室内には来訪者からの土産が数多くあり、今でも交流の場となっている様子が見て取れました。

これまで長い間多くの方から親しまれた大形先生が定年を迎えられ、時の流れを感じるところですが、今後もご活躍されることを祈念しています。

*25 冷蔵庫の中の食べ物の賞味期限をいつもチェックしてくれていました。

*26 一年生から四年生まで、毎朝、うちの研究室に登校し、そこから授業に行き、お昼を食べ、授業に行き、クラブ活動をし、あいている時間は勉強したり、ウサビッチを見たりしていました。あるとき英語のA先生がいらっしやっしたとき、なぜか本箱の横に隠れようとなりました。

*27 秋山さんには、パソコンを作ってもらったり、修理してもらったりしていました。

*28 私に会うために来ているのではないことがわかります。

魂の出席

平成 17 年度総合科学部数学科卒業・書道篆刻研究会

松露真

大形先生の話で最も印象に残っていることの1つに「魂の出席」があります。これは、大学の講義の出欠確認の1つで、「肉体がその講義の時間帯に講義が行われている部屋にいたかどうか」という「物理的な出席」とは異なり、『魂』がその講義の時間帯に講義が行われている部屋にいたかどうかを表す概念です。(当時「肉体の出席」と「魂の出席」の2種類の出席を取っていたと記憶しています)。

私はこれを「時間に間に合わせようという気持ちがあった²⁹⁾」と解釈しました。

大学を卒業し10年以上経ちましたが、今でもこの概念を日常会話の中で使っています。

例えば待ち合わせに遅れた人に「魂は間に合っていたからいいよ」という形です。

私の専門の数学や論理学と並び、大学で勉強したいろいろなことの中でよく使うもののうちの5本の指に入っています。

今までお疲れ様でした。これからも魂はあちこちにいる教え子に、ご指導よろしく願っています。

祝贺弔物（大形彻）先生荣休！

平成 11 年度総合科学研究科博士後期課程修了

洪偉民

弔物者，大形彻是也。初见，全无普通日本人那样磕头、哈腰之举。敦敦实实，圆

圆胖胖的，也未见有何仙气，时人常以为中国人也。后始知，先生乃与中国文化有缘，故有汉风。

先生学问好，老庄仙道、阴阳五行、各路神仙、魂魄鬼怪、皆如数家珍，如自家兄弟般召之即来、挥之即去。每每开课，非百人大教室而不能。更有慕名而来蹭课的校外女生³⁰⁾者，多为神仙、魂魄鬼怪者所迷惑也。研究室在三楼过道上，先生自命其为“空中楼³¹⁾”。“楼”小，学生却多，且多为慕名而来的小女生。其时，先生师从白石门下生戴山青先生学习书、画、篆刻。其书画篆刻慧于天赋，大有白石风范。课余，空中楼里人鼎兴旺，习神仙鬼怪者也；习书画篆刻者也，络绎不绝。先生其时蓄发美髯，始见古道仙风，渐有仙气。好酒，但不贪杯，也不醉。吾师从先生，然不得其精髓，学问自是不精，白石画风也不成，更无所谓文人好酒之说。终不及先生之一二者也。

今闻先生荣休，深感欣慰！许是先生终得仙道，业已遁入仙界，吾等凡人，终不及先生些许。唯愿先生一如既往好老庄神仙、好书画、好天下能好之物耳。

同学年いない1人ゼミ

平成 9 年度総合科学部国際文化コース中国思想卒業

森（澤村）雅江

このたび定年退職をお迎えになられるとのこと。今までお疲れ様でした。

私は、一般教養・専門科目でも何度もお世話になり、卒業年次も同学年いない1人

*29 毎日、5時58分うちの研究室を出て、地下鉄のなかまらずに向かっていました。そのため、「5時58分の男」と呼ばれていました。駅まで何分、駅間の時間もすべて頭に入っていました。彼に壺から拾までの漢数字を書いた扇子を贈ったことがあります。

*30 大阪女子大には書道部がなく、指導者もいなかったため女子大の書道部と一緒に活動していました。女子大からわざわざ府大に練習にきていました。

*31 三階にあった小さな研究室。中庭に面していて、四階、二階、一階に部屋がなく空中に浮いていました。

ゼミでご指導いただきました³²。

休日にも生駒のご自宅に留学生たちをご招待いただき、生地から手ごねした餃子パーティーも思い出です。

たくさんの方の事を教えていただき、学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

おかげさまで卒業後、ずっと専門学校で仕事をしています。

本当に大形先生には感謝の気持ちしかありません。これからは今までなかなかできなかったことも満喫してください。

いつまでもご壮健でご活躍なされますようにお祈り申し上げます。

回忆往事

平成 22 年度人間社会学部人間科学科中国思想卒業

芝原美佳

好久没有写作文了也不知道如何下笔好了，构思一下似乎也没什么头绪。前几天老师跟我说叫我写篇作文，我一听写作文突然有种不祥的预感，心想好多年没有碰过这东西了。后来一听说写一下生活琐碎的事情，我这心也算是安了。一直想了好久也没想好写什么。

回忆一下往事，似乎大学时候的事情就在眼前，每天起早赶着上课，放学又匆忙的赶着打工，回到家又要写老师给布置的论文。天天都在重复着一个模式，一个行程，上学，上班，写论文。就这样一年一年的过去了，转眼间四年的大学生活也到了尾声，其实这才是大学里最关键的时刻。如果毕业论文不过关，后果会很严重，那就是复读，一个很陌生又很熟悉的词汇出现在了脑海里。于是

在最后的这一年里，我开始了寄宿老师研究室的生活，每天睁开眼睛就是去老师研究室写论文，然后回家还是写论文。每天满脑子都是论文，突然就觉得心里都不美丽了，世界也变得黑暗了。老师还是跟以往一样，有的时候会说些干些不靠谱的事情，一种很不在乎世事的样子，其实还是蛮喜欢老师这种可爱的样子的。有时候会感觉像个孩子很不靠谱，有时候又会像个听众一下倾听我的唠叨与埋怨，时不时还会安慰我这弱小的的心灵，就像一碗心灵鸡汤一样。就这样每天老师跟着我一起把大学最重要的任务完成了。其实一说到毕业心中总会有很多的不舍，不舍得这个老顽童一样的老师，不舍得这个温馨的研究室，还有我珍贵的回忆。谢谢老师给了我一个平凡而又有意义的回忆。转眼间毕业已经十年有余了，每次看到电视剧里的青春偶像剧，还是会觉得大学生活真的是美好的，也是人生中最珍贵的回忆。希望老师退休以后也会像现在一样快快乐乐，开开心心。也希望老师会记得我这个平凡的调皮学生³³。

講義の解説は筆で水書板に

平成18年度人間社会学部研究科博士前期課程修了

曹里愛

大形先生、この度はご退職おめでとうございます。

大形研究室の思い出というと、先生ご自身の研究対象である「仙人」、その仙人のようなお髭をたくわえたお姿がまず思い浮かび、先生の優しい温かい人柄を慕って書道部や留学生の方たちがいつも集まって、とても賑やかだったことが思い出されます。授業は、先生が入れてくださった中国

*32 卒業論文は『易経』で陰陽ではなく、剛柔に着目した斬新な説を立ててくれました。

*33 学生さんは慣れてくると自由にふるまっていました。私が、府大内の理髪店で鬚を三つ編みにしてもらった、と自慢すると、「私が四つ編みにしてあげる」といって、四つ編みにしてもらったことを思い出しました。あとスーパーの袋は△に折るとよいと教えてもらい、いまでもそうしています。

茶をいただきながら和やかな雰囲気の中に行われ、講義の解説は、ホワイトボードではなく筆で水書板に書いてくださったことも懐かしい思い出です³⁴。

また、ある時は先生自らパスタを作ってくださいたり、お芋をふかしてくださいたりと、楽しい記憶が蘇ります。

修士論文を年末になってもまだ書けていなかった³⁵ 出来の悪い私に、先生は年末年始返上で研究室に出てご指導して下さいました³⁶。先生の優しさに甘え、本当にご迷惑をおかけしました。

現在は、研究とはまったく離れ子育てに専念している私ですが、子育てが一段落すれば、先生にご教授いただいた中国哲学や書道にももう一度取り組んでみたいと考えています。その折には、また先生の穏やかで優しい笑顔にぜひお会いできればと願っています。

最後になりましたが、これからもご健康で益々ご活躍されることをお祈り申し上げます。

在研究室度过的美好时光

吉林大学芸術院・元本学客員研究員

郭薇

您好！很久不见，一切都好吧。时间过得真快，转眼间您就即将退职了，非常想念与您在研究室度过的美好时光³⁷。关于约稿一事，因事一拖再拖，万分抱歉。今寄一篇，还望您不吝赐教，请多批评指正！

祝您身体健康、诸事顺遂！

おいしい豚まんの作り方

平成7年度総合科学部国際文化コース中国思想卒業

納堂（畠山）千代

納堂（千代）です。

ご無沙汰いたしております。

今年で退職なさるとのことで、長い間お疲れさまでした！

『400字で思い出の文章を』とのことですが、私なんか書かせていただいてもいいんですか？いやいや、畏れ多い！無理です！

きつとちゃんとした人が、ちゃんとした思い出を書かれる中に私が、『空中回廊の隠しダンジョン研究室³⁸に住む仙人』などという困った文章を挟み込んでしまうことになると思うので、遠慮したほうがよさそうです。すみません。

本とコーヒーと墨の匂いがする、小さくて居心地のいい研究室、西日の木漏れ日を浴びてビールが飲める³⁹バルコニー、大学時代の私の幸せな記憶です。

あの不思議な研究室、わかりにくい場所なのに、大形先生を慕って大阪女子大の学生さんとか留学生とか千客万来でしたよね。きつと我々教え子達は、大学時代の幸せな記憶の中に大形先生を置いて、大事な宝物のような気持ちで思い出します。そう考えると大学の先生って素敵な職業ですよ。ね。

*34 ホワイトボードを置く場所がなかったため。

*35 12月初旬に原稿用紙10枚ぐらいいし書けてなかった。

*36 帰りの電車も曹さんにあわせてJRの王寺行きに乗り、電車の中でひたすら漢文の訓読をしていました。

*37 吉林大学からの客員研究員。美術専攻（水墨画）でしたので、大学祭の書展にも出品していただきました。今回は玉稿も寄稿していただきました。

*38 隔離されていた狭い研究室。空中に浮いていた。

*39 ビールを飲んでいただけではありませんよ。

違う。逆だな。大形先生が素敵だったから幸せな記憶なのかな。

先生が一番最初に配ったレジュメ、まだ実家に保存してあります。(授業ではなく新入生オリエンテーションでの教科説明の物です)

内容は『おいしい豚まんの作り方^{*40}』です。551の豚まんとは違う、白菜と豚肉で作る強力粉のモチっとした生地の豚まんの解説。あれは最高でした。

入学してで一人暮らしの学生が集まって、みんなで一緒にあの豚まんをレジュメを見て必死に作りました。蒸し器が一個しかなくて大変だったことまでいい思い出です。ああ。先生のご自宅で留学生のみなさんと餃子パーティーもしましたよね。おかげさまで餃子の皮が自作できるようになりました。あの時、量くんにドラクエの隠し宝箱の在処を教えて「お姉ちゃんスゴイ！」って言ってもらえて嬉しかったなあ。ゲームなんてやっつて褒められることないですからね。

400字にまとめるのは到底無理な量の思い出が溢れかえります。あの「空中回廊の隠しダンジョン研究室」について、誰か素敵にまとめてくれたらいいなあ。(←他力本願ですみません) 最後になりましたが、長い間のお勤め、本当にお疲れ様でした。ご退職を心よりお祝い申し上げます。

新たな扉が開く予感

平成 19 年度総合科学研究科博士後期課程中国思想修了

重信あゆみ

先生との出会いは、平成 16 年に遡りません。先生の研究室を訪ねたその日は修士論文の提出日で、2、3 日寝ず、食べずの日が続いており、その日も約束の時間を大幅に遅れて行ったのを覚えています。先生は怒ることもなく待っていてくださっていました。そして、京大を受けない理由を尋ねられ、「遠いから」と答えたのですが、本当は、先生のもとで研究することで、新たな扉が開く予感がしたからです。そしてその予感は当たり、中国のみならず、エジプト、中央アジア、日本と研究の世界を広げることができました。

これまで、わたしの研究人生には様々な挫折、紆余曲折がありました。そのような中で、先生は我慢強く、忍耐をもってご指導してくださいました。先生の研究姿勢、そして教育姿勢を間近で見ることができたこの幸運に感謝し、これらからもこのような幸運が続くことを願います。大形先生、本当にありがとうございます^{*41}。

大形先生へ感謝を込めて

平成 22 年度人間社会学部人間科学科認知心理学卒業

小林真悠子^{*42}

私が大阪府立大学に在籍していた頃、大形研究室は古びた A1 棟にありました。複雑な構造の校舎を 4 階まで駆け上がり、薄暗いけれどどこか明るい不思議な廊下を抜けると、そこは本とバンダにあふれた仙人の巣窟。

中国哲学専攻でも、書道部でもなかった私^{*43}を、いつでも快く迎えてくれる大好き

*40 原文は全部ひらがな。「小籠包子」の作り方を説明したもの。私がコーディネートした「美食と粗食」というミニシンポジウム。国際文化講座の先生が 5 分ずつ話した。

*41 今年の春、晴れて博士論文を提出しました。素晴らしい内容です。

*42 アンジェラと呼ばれていました。

*43 私の授業は全部、受講してくださったような気がしますが、レポートは一度も出してないかも。

な隠れ家でした。

魂のありかを説く般教では、毎週のように心地よく魂を浮遊させてしまっごめんなさい。

類に教科書の型がくっきり残るほど盛大に寝落ちていた私⁴⁴を、いつも先生は笑って許してくれましたね。

そのままプリントの束と一緒に抱えて研究室に戻り、先生と中国茶を飲みながら、麒麟と急須の話や、日本と中国神話の共通点などを議論するのは本当に楽しかったです。

私がふと疑問に思ったことには絶対に答えをくれる、あるいはとことん一緒に調べてくれる。なんて賢くなことだったのか、大人になってから改めて実感しています。

予習してくるとは思いませんでした

平成 22 年度人間社会学研究科博士前期課程言語文化学専攻国文学修了

泉侑里

大形徹先生に出会ったのは、たしか中国哲学の講義だったと記憶している。『莊子』を原文から読解する講義だった。友人と二人で予習して、初めての講義に臨んだ。

「予習してくるとは思いませんでした」という先生の言葉に、面食らったものだ。

そこからの縁で、私は先生からたくさん物事を頂いたと思う。貴重な体験⁴⁵をさせてもらったり、貴重な蔵書を読ませてもらったり、美味しいものを食べさせてもらったり。小生意気な大学生だった私に、大

形先生はいろんなことを教えてくださった。

特に印象に残っているのは、「鳳凰の目は垂れ目」というお話だ。水墨画において、蘭を描くとき、「鳳凰の目のように描く」と教えるそうで、すなわち垂れ目なのだという。

では「鳳眼」とされる歴史上の人物たちは、みな垂れ目だったのだろうか。

そんな視点を教えてくださった大形先生に、感謝の気持ちを伝えたい。退職されたあともお元気で。またいろんなことを教わりたい。

热烈庆贺老师光荣退休!

平成 25 年度人間社会システム科学研究科人間科学中国思想修了

仇詩琪

非常感谢大形老师这些年来的教导。对我来说，大形老师既是老师，也是父亲。没有老师，就没有我在日本的一切。

犹记得第一次和老师见面，就是研究生考试当天。本以为没有提前联系老师的我肯定会落选，结果老师问我是否联系过其他老师，我感到一扇新生活的大门在缓缓开启。之后，研究室度过的每一天，都闪闪发光。老师像父亲一样，我们准备每一餐的食物。大家一起一边开心吃喝，一边认真学习，满满的亲切感，让我忘记了自己是在异乡求学。

最难以忘怀的是我在研究生一年级的冬天得了耳石症⁴⁶。事发突然，休息了一周后，老师以为我可能有所好转，便热情邀请我来

*44 学生が一人の一对一の授業でも、隙あらば寝ようとしていました。

*45 泉さんは漫研で絵がうまく、photoshop も自由自在に操れた。広報委員会に参加していただき、パンフレットと一緒に作り、オープンキャンパスでは泉さんの作ったイモロークンの動画を流した。学生の視点からのアドバイスは的確で、私の方がお世話になりました。『一衣帯水』では新宮の徐福のことを紹介していただきました。

*46 あと帯状疱疹を発症したこともあります。このときも医院に連れて行きました。あと何人かで私の海外出張に同行したときは、風邪をひき、そのあと私のいうことを聞かず、こっそり辛いものを食べ、お腹をこわして大変でした。

学校参加学園祭。我非常开心地到了学校，却在这一天吐了十三次。因为是休息日，能去的医院不多，老师急忙把我送到了泉北幼儿救护中心。我在医务室里面打点滴，老师就守在外面抱着笔记本电脑写论文。之后，老师又叫了出租车把我送回家。一路上老师都一直握着我冰冷的手，担心我的健康。

先生は私の師匠であり、お父さんであり、本当にお世話になりました。

毎週金曜日の論語の授業はとても役に立って、いつまでも記憶に残ります。あの時、暗記した「朋有り遠方より来たる、亦た樂しからずや」は、今でもよく思い浮かびます。

研究室で先生とみんなと一緒に、朝から晩までご飯を食べて、いろいろな知識を吸収し、書道を勉強したことが、つい昨日の事のように思い出されます。まるで自分の家のような温かい場所だったので、異郷にいるのに、ホームシック^{*47}になったことはあんまりないです。ここで過ごした最後の学生時代は私の宝物です。

先生は、「周伯通」（中国武侠小说に登場する人物）のような専門技術が高く面白い人間だと思っています。彼は一生、人生の楽しみを探しますが、先生も一秒も無駄にせず、論文を見たり、おいしい料理を食べたり、仕事をしながら、人生の楽しみをたくさん見つけていると思います。

感谢老师能参与我的人生，也希望老师退休后也能做自己最想做的事情，身体健康，开心每一天！

大形研究室の魂

平成22年度経済学部経済学科卒業

大塚善弘

私が大形先生に初めてお世話になったのは、一年生の時の「中国語会話Ⅱ」でした。中国語会話Ⅱは課題が多く、中国の新聞記事を漢字・ピンインを書き写した上で和訳する^{*48}というもので、図書館で腕を痛めながら課題に取り組んだことを覚えています。また、レポート提出時に記載する「肉体の出席回数」と「魂の出席回数^{*49}」という表現は今でも役立っており、飲み会などを欠席する際は、「肉体は欠席しますが、魂は出席します」と言うようにしています。研究室へは四年生の時から出入りするようになり、それ以降今日に至るまでずっとお世話になってきました。研究室では楽しい思いでしかなく^{*50}、ご退職されるにあたり、「いいよこの日が来てしまったか」という気持ちでいっぱいです。ですが、大形研究室の「肉体」は無くなったとしても、その「魂」はこれからも府大にずっとあり続けることと思います。私も一員としてこれからもその魂を守り続けたいと思います。

*47 ホームシックにはならなかったかもしれませんが、シックにはたくさんなりましたね。

*48 ピンインの自動変換機能がなかったとき、初級の授業で、NHK 中国語ニュースの原文を渡し、ピンインを付けた上で和訳させていた。教科書も全部写しなさい、だったので、府大の全授業の中で、いちばん、しんどかったらしい。その甲斐あって大塚さんは大阪市大の大学院の東洋史にみごと合格。なのにそれを蹴って超高倍率の府大職員試験にも合格。面接前に、うちの研究室にきたので秘策をさずけました。

*49 教科書として『魂のありか』（角川書店）を使っていたので。

*50 四年生の三月に書道篆刻研究会に入り、そのあと府大職員。毎日、昼休みに生協で同じバック弁当を買って、うちの研究室で食べていました。その後、なぜか上司の N 氏より、「昼休みに大形研に行ってはいけない」と出禁になってしまいました。ところが、当の N 氏が夕方、時々、遊びにきていたという、わけのわからない展開。

不思議な研究室

平成 23 年度人間社会学研究科博士前期課程教育学修了

山本直子

大形先生ご退職おめでとうございます。長年の間、ご自身の研究を続けながら多くの学生にご指導されたこと、本当にお疲れ様でした。

先生の研究室は不思議な空間でした。

オープンレンジやコンロ、鍋一式、お皿、茶器各種、様々な調味料、観賞用も含めた(?)やかん数種類。ウーハーのついた音楽機器、そして驚くほどの大量の本!…何でも揃っていました。いや、揃いすぎてました。

そうそう、先生はくだらないことを真剣に考え^{*51}、駄洒落を言うことが多々ありました。皆は軽くあしらっていたのですが、私はつい反応して笑ってしまい^{*52}、それをみた先生の嬉しそうな顔。とても悔しかったものです。

そんな居心地の良い大形研究室がとても懐かしいです。何の用事も無いのに、つい足が向いてしまうのです^{*53}。先生の、来訪者への惜しみのないおもてなしに心から尊

敬しております。

改めて、長い間ありがとうございました。これからも先生のご活躍に期待しております。

【要確認】修仙のご進捗報告について

平成 26 年度人間社会学部現代思想卒業

劉斯琦

大形先生

いつも大変お世話になっております。

かつて金髪野郎^{*54}であった劉です。

最近はいかががお過ごしでしょうか?先生の修仙進捗が気になり、久しぶり^{*55}に連絡させて頂きました。

私が在学時代から修仙に励んでいたイメージのある先生は、もしかしたらもうすでに仙人の一步前の段階に来ているのではないのでしょうか^{*56}。後々、自分の修仙チャレンジにぜひ参考させて頂きたいので、ぜひ共有していただけると幸いです。ちなみに私はフェアリーの欧米コースを希望しています^{*57}。欧米コースにも通用する部分をトピックに共有^{*58}して頂けると一層嬉しく思います。

*51 研究室で真剣な顔をして沈黙考していると、「また何かくだらないことを考えているんでしょう」と、別の学生にいわれたことがあります。その通りでした。

*52 孔子が弟子にあわせて異なった答えをしたように、わたしは学生さんによってダジャレのレベルを変えています。パタコちゃんは最低レベルのダジャレ1で噴き出してましたが、最高レベル 5 には、きょんとしていました。

*53 就職したあとも用もないのに電話をもらったことがあります。歩いているから電話したとか。

*54 男性ではありません。女性です。一年生の時、金髪でした。

*55 就職後、東京から日帰りで、うちの研究室に遊びに来てくれたことがあります。まさか、その日にまた東京に戻るとは。

*56 半仙のままです。かつて道教の聖地、安徽省の齊雲山を訪ねたとき、劉さんのお父さま、お母さまに、古い村落、宏村を案内していただいたことがあります。「近いから」といって、300km も離れたところから車で来ていただきました。

*57 似合いそうですね。

*58 ニット帽をかぶっていると、東京の N 先生 (男性) から「妖精みたい」と、いわれたことがあります。ゴブリンかも。

以上お手数をおかけいたしますが、どうぞ確認のほどお願いいたします。

今後とも何卒よろしくお祈り申し上げます。

贈る言葉

平成 25 年度人間社会システム科学研究科博士前期課程
人間科学中国思想修了

趙婧雯

大形先生

定年おめでとうでございます。

たくさんのことを教えていただき、学ばせていただきました。

大形先生大好きです^{*59}！研究だけではなく、生活面でもいろいろ教えてくださって、本当にありがとうございました。辛い時も、大形先生のおかげで立ち直りました^{*60}。私にとって、大形先生は第二の父みたいな存在です。

今までお疲れ様でした。

今後は健康に留意されてお元気にお過ごし下さいますようお願い申し上げます。

先生の冗談を見抜く力

平成 27 年度現代システム科学城教育学卒業

松村美里

長年、お疲れ様でした。先生に初めてお会いしたのは、篆刻に興味を持ち、研究室を訪ねたときでしたが、その時研究室に居られた他の方から、「先生、仙人みたいだよね」と言われていたことを覚えております。(確かに！)と思ひ、その後私も先生を

例える際に使わせて頂いておりました)。

書道や篆刻だけでなく、研究室で交わされる会話から中国文化や中国語等も学ばせて頂きました。また、皆で頂いた先生お手製の料理は、自身で作るときに参考にさせて頂いております^{*61}。中には、「先生の冗談を見抜く力」のように身に付けることが出来なかったものもありますが、様々なことを学ばせて頂き、誠にありがとうございました。

今後のご健康とご活躍をお祈りいたします。

大形研究室で社会福祉の片鱗を発見？！

平成 30 年度人間社会システム科学研究科博士前期課程
社会福祉専攻修了

小暮和歌子

私は授業で初修中国語を学び^{*62}、大形研究室ではその応用編の活きた中国語を学んだ。研究室で一番必要な中国語は“我要筷子！”だ。箸がなければ、先生がその日の朝に黒門市場で仕入れ、目に見えぬ速さ？で調理した、目の前のご馳走は食べられない。曜日や時間が異なれば研究室にいる人も異なる。絶えず人の流れがあるのだ。その空間では、日本人だか中国人だか、学生だか職員だか、来客者なのか、もはやそんなことはどうでもいい。とにかく“我要筷子！”と言えば、誰かから箸を渡してもらえる。

大学になかなか自分の居場所が見つけれない人は少なくないと私は思う。しかし、

*59 わあ。趙さんは小さい時に洗濯機に入るのが好きだったとか。何か面白いです。

*60 何でも相談してください。聞くだけですけど。

*61 このまえ、わざわざ、大学まできてくださいました。シェアハウスに引っ越すのだと聞いて、もろもろの調理器具をもってかえってくださいました。とても助かりました。

*62 産休で休んでいた楊老師の代講をしていた時の学生。堺市の中国語コンクールで三位、学内のコンクールでも好成績。じつは志が高く、ひそかに尊敬しています。

大形研究室には専攻、国籍、年齢、職業、生物学的分類問わず、多くの人や生き物が集まる。そして一緒に食べ物を囲み交流が始まる。時に互いの学習や研究を助け合う。私は胸を張って自慢する。この空間を作り上げる大形先生ってすごいでしょ？

我的老师

平成 30 年度人間社会システム科学研究科博士前期課程
中国思想修了

付夷炜

光阴如梭，我在日本已经度过了四个多年头。在这当中，有大概三年时间是在大阪府立大学的大形研究室度过的。在我毕业一年之后，我的老师也要退休，时间过得如此之快，想想还真是让人有一些伤感。

虽然我已经工作了近一年，但是在研究室中的种种，依然记忆犹新。

我的老师，是个日本老爷爷^{*63}。说着一口日本味儿的中国话，研究的课题是中国的神仙思想。不知道是不是因为这个课题，老师本人也好像仙人一样，我们的研究室就好像是仙人的藏宝洞，你永远不知道究竟会从哪一个角落翻出一些意想不到的东西。而我们，就在这仙人的带领下，每天不断的吸收日月之精华，山川之灵气，最终孕育出了学位论文。

大形老师的爱好很多，其中最大的爱好，则是每天在学校的各个地方捡起留学生，然后带回研究室当做研究的材料。每当这时候，被捡来的留学生都会在老师的笔记本上写下自己的名字，好比签下了“卖身契”^{*64}。而每周五，则是研究室最热闹的时候。上午的课程在研究室的隔壁，到了午休的时间，老师就会亲自下厨，为大家做好吃的饭菜^{*65}。

对穷苦的留学生（比如我）来说，这就好像是仙人的赏赐一般，让我们填饱了饿扁的肚子。

在现在日常的工作中，我也会时常回忆起在研究室的日子。而如今老师的退休，也让这样的日子一去不复返。在研究室的日子，将永远留在我的心中。在文章的最后，希望老师能够健健康康，迎接退休后的生活。如果可能的话，还希望能把当初大家希望的大形食堂办起来。

『本草綱目』を見てみたい

平成 11 年度総合科学部総合科学科自然環境科学コース
卒業・書道篆刻研究会

久保輝幸

学部一回生の時に、教養科目として中国思想史を選択し、先生の授業を受ける機会を得ました。それまで、私は『三国志演義』を通して辛うじて五斗米道という名前を知っていた程度でした。ある日、授業で先生が『本草綱目』の胞衣について紹介してくださったので、先生に『本草綱目』を見てみたいとお願いしました。

快諾いただいたのですが、同時に書道の経験はあるかと聞かれました。私は高校では芸術選択として書道をやっていたので、「はい」と答えました。とはいえ書道は素人で、とても人に見せられるような字は書けません。それでも書道部の部員になり、水墨画ばかり描いていましたが、大学を楽しく過ごすことができました。

ただ一回生の時に膝の怪我が遠因で腰痛が悪化し、前期試験を半分ほど受けたところで、手術のため入院することになり、リハビリのため後期も欠席しました。それで

*63 おじいちゃん。

*64 なるほど。そうだったんですね。おそろしい。

*65 付君は鳥軟骨が好きでした。

も卒業できたのは先生の支えがあってこそでした。

もともと植物学を志望だったため二回生から理系所属になりましたが、その後も先生の研究室によくお邪魔しておりました。

三回生の頃、ある女子学生が「大形先生は仙人だと聞いたのですが、本当ですか」と研究室から出てきた私に真剣に聞いてきました。私は少し考え、「その通りです」と答えました。

先生が授業で「史書に仙人が記録されているのだから、少なくとも仙人と呼ばれた人々は存在したのだ」というような主旨の話をしてきたことを覚えていたため、そう答えました。

仙人は科学的に到底ありえないと一言で済ますこともできるので、とくに理系教育を受けた人はそれを軽視する傾向があります。しかし思想として確かに存在しており、それは私には人間として非常に重要だと思いました。

卒業後、本草学をさらに学ぶため茨城大学に進学し、さらに中国科学院に留学して園芸史の研究をしましたが、この一連の経歴は言うまでもなく、それは一回生の時に中国思想史の授業を選択したのが出発点でした^{*66}。

大形先生小傳

平成13年度工学部数理工学科卒業・書道篆刻研究会

新井玄巖

大形先生者、號曰邢澈。播州加古川人也。胡髯童顏、眉生而連^{*67}。

少時赴西京而學儒學、後除郡學助教。之後喜黃老學而甚好莊周學。郡學太學士每會諸儒而討論講究、特先生爲胡蝶而出游。然而衆儒以爲貪眠。

郡學樓上一書房、號七八齋。初甚狹隘、後漸得爲寬闊。房中藏書萬卷、以書櫃爲壁、恰如入洞窟中、故又稱半僂窟也。內有仙芝芳草之小景。嘗有養金魚、由此人又號發發齋。諸生常來往而不問晝夜、又不遠千里而至者不可勝數。窟中常設餅果茶飲乾飯、墨香茶煙、四時不絕。先生時調謔而悅試諸生賢愚。然多不能解其意、反而以爲其意甚遠而不可及也。

先生初學書法篆刻於燕京人戴山青^{*68}。然其書合諸家之法而自成一派。兼善金石古文隸草、并畫草木禽魚而皆造於妙。筆硯紙墨不必極精良、數索斷紙餘墨而戲畫。有來而求書畫者則援筆立成。自言是人生一樂。著『不老不死』五篇、『魂魄何處』四篇、

*66 昨年の北京大学のシンポジウムでたまたま久保さんと同席しました。久保さんの発表は、あらかじめ提出していた内容と違う話でした。発表内容を盗まれないようにと、理系ではよくあることらしいです。私は院生の池内さんと共同発表でしたが、発表するのは池内さんだったので気楽なものでした。ところがいつのまにか司会と評議人(久保さんを含め4つの発表のコメンテーター)になっていました。そこで久保さんの新しい発表の梗概を急遽、ご本人に中国語で書いていただき、何とかそれを読んでごまかした、という笑い話です。あとで、ヨーロッパの先生に、「我佩服你」と褒められたのは、汗顔の至りです。

*67 『列仙傳』犢子曰、「眉生而連、…皆言此天人也」。

*68 戴山青(1944~2004)。北京、篆刻・書法家。嘗留學於大阪府立大学。『邢澈傳』曰、「(戴)山青學篆刻於劉冰庵(1910~1973)。劉冰庵者齊白石(1864~1957)之弟子也。故邢澈之篆刻亦頗有齊派之風」。

皆考生死之理也。在郡學已經數十餘年、其弟子蓋三千焉。遂去南都生駒山、莫知所之云。自注：我嘗於郡學、受師之講、忝陪末席。因而知之矣。

大形教授の退職に寄せて

人間社会システム科学研究科分室・書道篆刻研究会

吉浦加寿子

お気に入りのリュック、片手にスーツケースあるいはキャリー、もう片方の手に野の花。

まるで絵本の主人公のような姿で大学に来られる。

そしてその研究室は無いものがないくらい色々なものであふれている、いや揃っている。

研究室に来るものは拒まず、どんなに忙しくても「まあ、お茶をどうぞ」と自ら入れてくださるお人柄。つい腰を掛けてしまい会話する中、真剣に聞いていると急に冗談が入り「えっ？」となったりする⁶⁹。・
・気を抜いてはいけない！

そしてオープントースターとレンジ・電磁調理器を駆使してパパッと作られるお料理には驚きでもありましたが（警報機など鳴らなくて良かったです）、ごちそうになること幾多。珍しいもの（人生初もの）もありおいしかったです。

一方、中国文化・哲学について全く知識のない私にもあれこれ丁寧に教えてくださり、博物館などで中国古美術品を見る機会が増え、文様や種類など興味が広がりました。

また著書も拝読しましたが、その注釈の数にはびっくりしました。

丁寧に読んでみると、なかなか先に進めません（φ(..)メモメモ）

書道・篆刻においては、書画はさらさらと、篆刻はササッと、さらに本の表紙やポスターなど思わぬモノ⁷⁰から素敵な作品を生み出されます。

「一期（またはお酒一合）一会」こんなにタフで多才でお茶目でそのうち仙人になりそうな先生と巡り会えたことは、私の一生の宝物です。

ご退職のお祝いを申し上げるとともに、これからも色々な情報を発信し続けて下さい！

2020年1月吉日

色褪せない思い出

総合科学部人間科学科中国思想卒業

西岡孝晋

随想なんてたいそうなものは自分には書けないし、このまま提出期限を見送って辞退してしまうかと悩みましたが、でもつまらない文章になったとしても、一言でも何かぜひ書きたいと思い、恥ずかしい文章になることを覚悟の上で筆を執らせていただくことにしました。

大形先生、ご退職おめでとうございます。お疲れ様でしたと心より申し上げたいと思います。

先生の研究室で卒業論文を書かせていただきましたが、自分がいかに劣等生だったかを今頃になってつくづく感じます。よくあんな論文で卒業させてもらえたなど今となっては恥ずかしい限りです。

府大を卒業してからはや十数年が経過しましたが、今でも研究室の居心地のよさが懐かしく思い出されます。A1棟の4階(当

*69 虚実皮膜の間を心掛けています（笑）。

*70 今回の『人文学論集』の表紙は、吉浦さんが筆を洗ったあと、筆先をくるんだ反故です。

時は総科1号館と言ったことも今となっては懐かしい・・・)、引き応えの軽い扉、やたらとバネの効いた椅子の座り心地。そしてあの和やかな雰囲気。今でも鮮明に思い出されます。

就職活動をしていた頃には、少し派手な色のカッターシャツ⁷¹を着て企業に挑み、失敗ばかりしていましたが、先生と当時研究室にいた留学生の学生さん⁷²に、コーディネートのアドバイスしてもらって以降、面接の手ごたえが出てきた⁷³のも良い思い出です。

学生だった当時からするとキャンパス内は随分と様変わりしましたが、当時通った研究室が今もそこにある、指導教員になってくださった先生が今もいらっしゃる、ということが、その後縁あって現在府大で働かせていただいている⁷⁴自分にとっては、学生時代をふと思い起こさせてくれ、また、それが、慣れ親しんだ場所で仕事をさせてもらえているという実感につながり、心のどこかに安心感を与えてくれていた気がします。

しかし、この思い出深いA1棟は今年度(2018年)の取り壊しが決まっています。

元研究室の解体⁷⁵、そして翌年に先生の

ご退職ということで、ひとつの区切りを迎えることになると思うと、寂しいところがありますが、先生にご指導いただいたからこそ今の自分があることは間違いありませんし、今こうして府大で働かせてもらえているのだと思っています。私は今後もまだまだ府大に奉職させていただきますので、先生のご指導を胸に秘め、府大のために力を注いでいきたいと思っています。

改めまして、感謝申し上げます。ありがとうございました。

先生、どうかお元気で……。ご退職後も末永いご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

定年退職、おめでとうございます

人間社会システム科学研究科職員・書道篆刻研究会

岳峰弘実

永年にわたり務められましたことを心から祝い申し上げます。

大形先生のそばで勤務できましたことは、とても幸せでした。心が豊かになりました。

☆学びの魅力

先生のそばにいと「中国に関すること

*71 かなり派手な鮮やかな黄緑色。リクルートスーツの中では、悪目立ち、していたはず。

*72 「ショウビン」さん(既出)。かわいそうなくらいボロクソに言われてました。

*73 その甲斐あってみごと某スーパーに就職。スーパーマンとなった。

*74 スーパーマンから大阪府公務員へ変身。ものすごい倍率だったらしい。何を着て面接試験を受けたのかが気になります。

*75 A1棟の4階にいました。もう解体されて跡形もありません。人間社会学部のパンフレットを作っていた時に、「大学という風景 大学生という時間」というページを設けていました。卒業生の感想を読むと、それぞれの中に「風景」があり、「時間」が止まっているのを感じます。私の研究室は総合科学部1号館[A1棟]4階(平木康平先生と相部屋)→3階(平木康平先生と相部屋)→総合科学部3号館[A15棟]3階空中楼(この部屋は上(4階)も下(2階)もなく空中に浮いていた。音楽の音量を大きくしても平気だったので、居心地はよかったが、ふつうの部屋の半分ぐらいしかなく、すれ違うのもたいへんだった。のちに教授の部屋の居住面積に足りないということで)→A1棟(総合科学部1号館)4階(その後、地震がおきたら倒壊する、ということで)→A15棟3階へ。

を、もっと知りたい^{*76}」が止まりませんでした。「新しい知識が増える楽しさ」は、日々がワクワクし、心が豊かになりました。人生後半の楽しみに「学びなおし」の楽しさを見つけられ幸せです。

☆愛される「人たらし」先生

先生の笑顔は、周りの方を和ませてくれます。研究室には、いつも人が集まり、たくさんの方に囲まれてましたね。先生や皆さんと過ごした時間は、心が豊かになり幸せでした。

大形先生、ありがとうございます。これからも先生のそばにいたいので、4月からは文化サロンに参加いたします。「大形先生といつでも逢えるおうち」が、欲しいです。あれば最高ですね！

今後のご健康と、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

大形先生、ご退職おめでとうございます

大阪府立大学職員 平成 25～27年 人社支援室、平成 27年～31年 財務課

奥田文子

私はお昼休みに毎日のように大形先生の研究室に行っていた^{*77}。普通、職員が教員の研究室に行くのは、打ち合わせか、せいぜい謝りに行くくらいだと思う。でも、私は仕事が終わった後、ただ喋りに行ったりもしていた。

そして、大形先生の研究室には必ず誰か

いる。それも何人もいる。ただでさえ広くない研究室に、本が山積みでスペースはないのに、その隙間をうまい具合に使って、椅子がいくつもおいてあるので、皆好き好きに座っている。

大形先生は、誰であっても拒否することはないし、行けばいつでも美味しいものがある。だから、みんな居心地がよくて来ているのだと思う。来ている人も多種多様で、国籍も様々だ。研究の相談に来ている人もいれば、習字をしている人もいる。私のようにただしゃべりに来ている者だっている。そこにはどんな人も否定する雰囲気が無いし、大形先生が偉そうにしたり、何か強要することも無い。だからみんな自由で、部屋はカオスだ。

大形先生はいつも忙しい。学生の論文指導も「ここは書き直ししてくるように」と言えばいいのに、一文字一文字一緒に見て、直していったらあげる。これは途方もなく時間がかかる。だから、ご自身の論文や書籍の執筆は片道2時間の通勤時間で書かれている。睡眠時間もあまりない。だから、会議の時に寝ておられてもしょうがない^{*78}。

私はこんな先生を他に見たことがないし、人間でも見たことがない。だから、大形先生は仙人なのだと思う。

38年間本当におつかれさまでした。

*76 府大の職員の方たちの知的レベルの高さは相当なものです。岳峰さんと吉浦さんは、私のつまらない書籍や論文を読んでくださっており、講演にも来てくださりました。驚きとともに感激です。もちろん仕事は完璧です。

*77 お弁当を食べにいらっやりました。途中から府大に勤め始めたばかりのKさんも一緒に来るようになりました。さびしいだろうと奥田さんが誘ったためです。

*78 福建省で開かれた洞天福地の国際会議の写真をみると寝ているようにみえる。京大の人文研の国際シンポジウムで中国語で司会をしたときも一瞬、寝ていたらしい。社会人の学生さんのご息女の結婚式に来賓として呼ばれ、スピーチが終わり、おいしいお酒を飲んだあと爆睡し、その写真を、その場でネットにあげられました。(スピーチはとても受けました。ご心配なく)。

あの柔らかな紙の風合いと醸し出すおもしろさのパンフレット

人間社会システム科学研究科博士前期課程・書道篆刻研究会

西尾真澄

この度、大形徹先生におかれましては、恙無くご退職をお迎えされますことを心よりお祝い申し上げます^{*79}。

中国思想との出会いを下さいました大形徹先生には、どのような言葉で感謝の思いをお伝えしてよいのかわかりません。今は無き人間社会学部に、大形徹先生がいて下さいました。出会いに導いていただいた日々が、今思い返されます。不思議なことがたくさん思い返されます。今は、ただただお送りさせていただくしかない現実を噛み締めております。

2009年の冬、1回生の時に書道部員となり、以降いつもぼんやりと大形先生の研究室を風景として眺めていました。不思議な世界でした。一冊ずつの本として意識し始めるまでは数年かかりました。4回生になっていました^{*80}。今、大形徹先生の院生として最後の風景を目に焼き付けようと眺めています。やはり、奥が深すぎて本が見えてくるほど遠のきます。

北海道で願書とともに手にして何度も熟

読した、人間社会学部のあの柔らかな紙の風合い^{*81}と醸し出すおもしろさ^{*82}のパンフレットが、大形徹先生の元に導いてくれました^{*83}。大形先生がつくられていた事を後で知りました。

この日が来てしまいました。心より感謝申し上げます。

大形老师

平成23年度人間社会学部人間科学科中国思想卒業

孔令竹

2020年の新年提筆写给您一封短短的信。提笔间，已经距离我的大学时光有8年了，很庆幸，我们的师生关系至今还是那么的密切，也很荣幸当初能成为您的学生。

依稀记得，入学的第一天，在大讲堂里，我坐在最后一排，不知道如何选课，手忙脚乱的时候，您亲切的走到我旁边安静的坐了下来，看着我写着名字的选课表对我讲：“你姓孔？是孔子后代吧^{*84}”？我当时都蒙了，“您是中国老师吗，中文讲的那么好，可以帮我解释下如何选课吗”。就这样我们的第一次见面开始了，选课后，您邀我去办公室，说有好多前辈在，以后有不明白的可以随时咨询。真的很庆幸开学第一天就遇到了您。在那之后的大学生活里，几乎每一下课我

*79 言文一致体の文章です。

*80 教育学を卒業。でもその時の卒論のテーマは「玄」という色。そのあと広島大学の文化財学科に行き、また府大に戻って中国思想の院生。一人で中国に調査に行く勇気があります。

*81 広報委員でパンフレットを作っていました。紙はケナフです。環境にやさしいということですが、手触りもいいです。ツルツルの紙のパンフが嫌だったので使いました。それを気に入ってくれたのが西尾さん。染色とか布と微妙につながっていますね。

*82 イモロクンという、ゆるい連載漫画を一年に一回、連載し、10年ぐらい続けました。「イモロクン」だけでネット検索できます。

*83 そんなことってあるんですね。

*84 孔さんは卒論で孔子の家譜について書きました。「令」のつく名は76代目です。何人かで山東省に調査に行き、孔子研究院の院長の孔祥林氏から聴き取り調査をしました。

就去您的办公室里，听您讲冷笑话^{*85}，讲知识，还有吃您做的“自创料理”。出奇的是简单的食材，您每次都做的很好吃。这让我觉得教授的办公室就是个百宝箱，有书，有吃的，有玩的，有前辈和后辈们以及来自各国的留学生。同时让我大学四年的生活每天都那么多姿多彩。

世界上最宝贵的是时间，最无情的也是时间，转眼间，我毕业8年了，然而老师也将在今年退休。您退休这件事本应该开心的，辛苦了这么多年，终于可以休息一段时间了。但同时也很难过，曾经的办公室将变得空空荡荡，心里夜空落落的。但想了想，没关系，学校依旧在，我们依旧可以在闲暇的时间一起逛图书馆，食堂，学校的角角落落。您我依旧是府大的教授与毕业生。

至此，我希望老师今后的日子依旧做个快乐的人儿，同时我也会做好身边的事情，努力的创出自己的一片天。

大形先生との不思議なご縁

愛知県立大学准教授・本学客員研究員

洲脇武志

二〇一六年、「近近代東アジアにおける術数文化の形成と伝播・展開に関する学際的研究」（代表：水口幹記氏）という科研費課題にも参加することになりました。ただ、当時の私は科研費への応募資格がなかったため、研究協力者として加わっていたのですが、科研のメンバーで当時は学振の特別研究員として大形先生の研究室に所属していた佐々木聡さんの紹介^{*86}で、大形研究室所属の客員研究員となって科研費への応募資格を取得し、翌年度から研究分担者と

なることができました。佐々木さんの紹介があったとはいえ、縁も所縁も無い私を快く受け入れてくださった大形先生の懐の深さには、感謝の言葉もありません。

余談ですが、私は指導教授である三浦國雄先生を始めとして、節目節目で関西にご縁のある先生にお世話になってきました。そう考えると、大形先生のもとで客員研究員となったのも何かしらのご縁あつてのことのような気がします。

最後になりましたが、大形先生の益々のご活躍をお祈り申し上げます^{*87}。

您永远的学生

人間社会学部社会システム科学研究科博士前期課程

劉源^{*88}

大形老师：

能当您的学生是我来日本之后遇到的最幸运的事情。为师者，传道授业解惑也。您不仅在学习上指导我，还像亲人一样，在生活各方面帮助我。记得那次我生病发烧没能去上课，虽然您第二天要出差却还带我去医院，耽误了您很长时间，让我十分感动。再后来我每次身体不舒服的时候，您都会对我嘘寒问暖。这种支持和安心感，让我拥有了在异国他乡即使遇到困难也能勇敢面对的勇气。

还记得第一次与您见面，您对初次认识的我特别亲切，和您的整个交流过程都非常轻松愉快，让我紧张的心情完全平静了下来。我以往遇见的老师都比较严厉，这让我跟老师之间产生了一种上下级的距离感。但是您不一样，您对每个学生都平等友善，像朋友一样。我经常跟朋友说我的老师有多么好，

*85 ダジャレ。

*86 佐々木博光さんから、よくできる人だと聞いていました。

*87 12月に府大で開かれた阪神中哲談話会に、わざわざ愛知から参加していただきました。感謝しています。

*88 名前から男性かと思っていました。

他们都非常羡慕哈哈。虽然有点不好意思，但是还是想说您是我遇到的最好的老师，是您让我对师生关系有了更多的体会。

然而，作为您的关门弟子，最遗憾的是只能当您一年的学生^{*89}，说起来非常难过和不舍。感谢遇到您，感谢您的支持和帮助。希望您拥有幸福又充实的退休生活。最后祝老师身体健康，事事如意。

中国の流行歌

人間社会システム科学研究科社会福祉分野博士前期課程

岡田真理

ご退職おめでとうございます。6年間のご指導ありがとうございます。大形先生の講義はいつも面白く楽しんで受講させていただきました^{*90}。

1年生の頃に講義で沢山の中国の流行歌^{*91}を教えて頂いたことが印象に残っています。flumpoolの曲はそれまで詳しくありませんでしたが、講義をきっかけに興味をもってCDを購入しました。

中国文化史の講義では民間伝承や妖怪などのお話を聞きましたが、どれも初めて知ることばかりでとても面白く拝聴致しました。

その中でも、「方相氏」のお話に興味を持ちました。追儺という儀式は耳にしたことがありましたが、由来などは知りませんでした。次回、神社の行事を見る際には注目してみたいと思います。

大形先生のおかげで中国語の学習が楽しいと感じるようになった^{*92}ことは大きな収穫でした。今後も勉強を続けていきたいと思えます。

大形先生におかれましては、これからも健康で素敵な人生を歩まれますよう、心よりお祈り申し上げます。

一文字一文字調べてゆく地道な作業

平成 27 年度人間社会学研究科人間科学専攻博士前期課程中国思想修了

林みどり

平成 25 年（2013 年）に社会人学生として大形研究室に入学しました。前年に鍼灸師の先輩の先生に誘っていただき、授業を聴講させていただいたことがきっかけです。

私は鍼灸師とお香・アロマセラピーの講師をしており、鍼灸の古典医書が読みたい、植物療法のルーツを知りたいと常々思っていました。仕事の合間に大学に通うことなど考えてもみませんでした。大形先生が背中を押してくださいました。

何種類かの辞典を引いて一文字一文字調べてゆく地道な作業、慌ただしい日常の中で忘れていた大切なことです。修士論文のテーマをお香と植物療法に通じる「訶梨勒」という植物に焦点を当てて本草綱目、神農本草経などを辞書や文献に立ち戻って調べました。何人かでほぼ徹夜になってし

*89 劉さんと范さんは、私があと一年しかないのに入学してくれた奇特な学生さんです。劉さんは東京からわざわざ大阪までできてくれました。

*90 東京の一橋大学で行った講演会にも参加していただきました。感謝です。

*91 聴力の向上と現代の中国を映像で紹介するために、毎回、流行中のミュージックビデオを流しています。まちがってもテレサ・テンは聴きません。

*92 岡田さんは中国にしばらく住んでいらっしやったので中国語はよくできます。NHK の中国語ニュースは毎週、受講生以外にも配信しています。岡田さんは毎回、完璧に訳して持ってきてきてくれます。ニュースはリアルタイムの中国を理解するよい教材です。次の週に思わぬ展開を遂げていることもあり、面白いです。

まった日、先生はご自身の執筆があるからと（本当は私たち学生のために）研究室で朝までつきあってくださいました^{*93}。

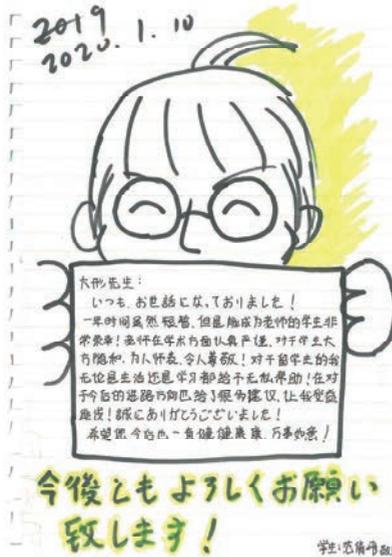
大形先生の授業と論文執筆は私にとってかけがえのない経験でした。先生の壮大な知識と知恵と遊び心と寛大さと優しさに尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました。

万事如意！

人間社会システム科学研究科博士前期課程人間科学専攻中国思想

学生：范情形



一年时间虽然短暂^{*94}，但是能成为老师

的学生非常荣幸！老师在学术方面认真严谨，对于学生大方随和，为人师表，令人尊敬！对于留学生的我无论是生活还是学习给予无私帮助！在对于今后的进路方向也给了很多建议，让我受益匪浅！

希望您，今后也一直健健康康，万事如意！

贈る言葉

平成 26 年度人間社会学研究科人間科学専攻博士前期課程中国思想修了、その後、本学客員研究員

中吉隆之

大形徹先生、本当にお世話になりました。ありがとうございました。今後も陰ながら応援させていただきます^{*95}。

大阪府立大学中百舌鳥キャンパスの一室。そこは本の山に囲まれ、光りも入って

*93 徹夜で勉強するとかで待っていましたが、やってきたのが、なんと夜中の 12 時。その日は春節だったので留学生たちも夜中にはじけており、うちの研究室にやってきました。

*94 范さんも劉さんと同じく、一年でもいいから、と来てくださった奇特な学生さんです。あとは櫻井先生にお願いしています。

*95 中吉先生にはよく頭に針を打ってもらっていました。もっと太い方がいいでしょうと、結構、太い針だったような。

こない⁹⁶。部屋の真ん中には大きなテーブル。テーブルの上には怪しげな電子器械、植物や薬品。部屋の片隅に古ぼけた戸棚、中には儀式で使われる様々な器具。やがて、お昼時。どこからともなく儀式に参加する者達が集まり、何かが始まる⁹⁷。この場所こそが大形徹研究室でした。

私の入学初期の授業のエピソードの一つ。漢字の意味を『大漢和辞典』で調べることになりました。大形先生が書棚からボロボロの分厚い辞典を取り出し、さっと開き「これを使って自分で調べて下さいね」と私に手渡されました。さて調べましょうと辞書をのぞくと、何と、その漢字のページでした。これにはビックリ。(おそらく実力を見せつけるために、事前に何か仕込んでおいたのでしょうか⁹⁸)。

本は積まずに整理整頓しましょう

工学城電気電子系学類 3月卒業予定・書道篆刻研究会
名誉部長

岡本康暉

大形先生、ご退職おめでとうございます。先生との出会いは私が書道部に入部した時でした。書道部の活動では、中国での筆の持ち方、書法、篆刻、漢字、中国語など、中国に関する様々なことをたくさん教えていただけました。また、活動後には美味しいお菓子やご飯を振る舞っていただき、あ

りがとうございました。しかし、大形先生の実験室にある食べ物は変わった食べ物が多すぎて、私が食べられるものが少なかったです⁹⁹ (笑)。あと、研究室はモノが多すぎです。雪崩の被害に遭われた部員もいましたので、本は積まずに整理整頓しましょう¹⁰⁰ (笑)。

私は大学に入学して、大形先生と研究室に集まる愉快的仲間達と出会うことができ、毎日が新しい発見でした。部活のない日も研究室にお邪魔させていただき、先生にはとてもお世話になりました。本当にありがとうございました。ご退職後もぜひ府大の書道部に遊びに来てください。学園祭、合宿¹⁰¹のご参加お待ちしております。

学園祭の書道展

平成8年度総合科学部総合科学科中国思想卒業

佐々木(花市)書絵

卒業前に結婚が決まっていた私は、府大での四年間よりもその後のの方が先生との思い出が沢山あります。

平凡な「佐々木」という旧姓から「花市」になりますと報告すると、綺麗なお名前です。結婚祝いに「花市」の印と色紙の絵をプレゼントして下さいました。あれから二十三年経った今も大事に使い、家に飾らせていただいています。

子どもが生まれてからはよく家族で学園

*96 そのころはA1棟四階でした。ブラインドを閉めた事がないので明かるかったはず。中吉先生の心象風景なのでしよう。

*97 煉丹術を行って参加者に試していました。

*98 そんなにヒマではありません。

*99 岡本君とS君は、かつて口にしたことのあるもの以外は受けつけない性格なので、うちの研究室にある各国のお土産の類はきつかったようです。

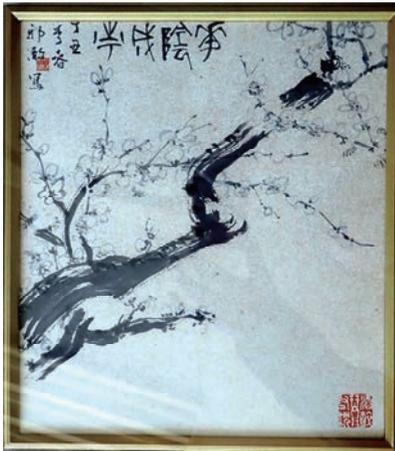
*100 研究室に来る学生は三段階の進化を遂げます。①緊張でおどおど。②押れてきて食べ物をあさる。③「部屋を片付けろ」と説教する。

*101 秋に天智天皇の都迹に建つ飛鳥岡本寺で合宿しています。写経をします。

祭の書道展を訪れました。先生は、娘¹⁰²の拙い字でさえも「いい字ですね」と褒めてくださり、娘の名を書き入れた扇子を下さいました。今高校生の彼女は、それを時折眺めては「先生の字きれいやなあ、私もお髭の先生の授業を受けたかったなあ」とつぶやいています。

今春府大を卒業する長男は、先生の授業は人気があり残念ながら抽選に外れ受けられず、昨年授業を受けた次男は、面白い話でかわいらしい先生だったと。

私だけでなく子どもたちまで二十五年に渡って先生にお世話になるとは思ってもいませんでした。大形先生、長い間ありがとうございます。印と色紙はこれからも我が家で大切にいたします。



華(花)陰成市(花の下には人が集まり市場ができる)

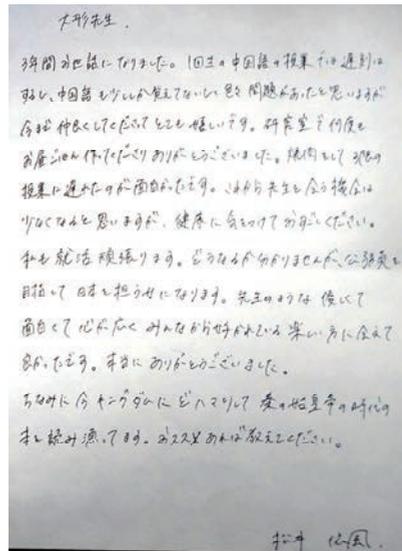
丁丑(1997年)季春 邢澈 寫

公務員になって日本を担う女になります

現代システム学域マネジメント3年生

松井依風^{いぶき}

3年間お世話になりました。一回生の中国語の授業では遅刻はするし、中国語も少ししか覚えてないし、色々問題があったと思いますが、今まで仲良くしてくださってとても嬉しいです。研究室で何度もお昼ご飯作ってくださってありがとうございます。焼肉をして3限の授業に遅れたのが面白かったです。これから先生と会う機会は少なくなるとは思いますが、健康に気をつけてお過ごしください。私も就活頑張ります。どうなるかわかりませんが公務員になって日本を担う女¹⁰³になります。



先生のような優しくて面白くて心の広い、みんなから好かれる楽しい方に出会えて良かったです。本当にありがとうございます

*102 コロナウイルスで学校に行けない娘さんと一緒に研究室に遊びに来ていただきました。もう高校生です。

*103 世界を担う女になってください。

ました。

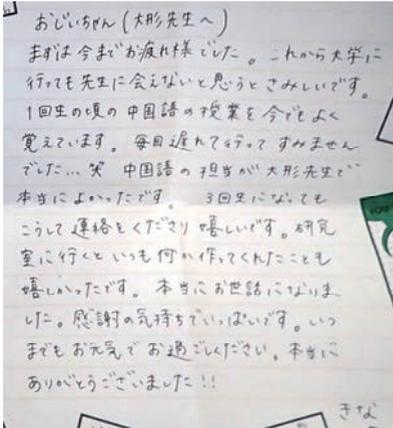
P.S.今キングダムにどハマりして、秦の始皇帝時代の本を読み漁ってます。オススメあれば教えてください¹⁰⁴。

おじいちゃん¹⁰⁵（大形先生）へ

現代システム学域マネジメント3年生

渡辺晞那

まずは長い間お疲れ様でした。一回生のときに受けていた中国語の授業を今でもよ



く覚えています。中国語の担当の先生が大形先生でよかったです。研究室に行くと、いつもごはんを作ってくれたり、いろいろなお話をしてくれたりして嬉しかったです¹⁰⁶。ありがとうございました。本当にお世話になりました。いつまでもお元気で過ごしてください。

漢方薬局を営んでいた私が

人間社会システム科学研究科博士後期課程

池内早紀子

大形先生ご退職おめでとうございます。諸先輩方、数多きら星の如くあるなか、末席に加えていただけたことに感謝のほか有りません。漢方薬局を営んでいた私が、鉱物性の薬物（石薬）に疑問を持っていたところ、先生の『不老不死—仙人の誕生と神仙術』に出会いました。「この先生に会いたい!」。大阪府立大学にご在籍で、社会人にも講座の一部が受講できることがわかりました。学生から「チャイソー¹⁰⁷」と呼ばれていた授業です。受講することが可能となり、早速、先生の元へ。先生の本を片手に質問しました。すると先生は「研究室に付いてきて下さい」と。付いていった研究室は、大形食堂¹⁰⁸でした。まず手渡されたのは、お箸。先生は「いきものがかり」飼育委員さんだったので。あれから、ほぼ10年。押しかけ弟子の私は、大学院に入学、先生の学生になることができました。そして肥育委員さんにより、1年に1kgづつ成長しました。先生は、「1年に1kgは、1日に3gもありません」とおっしゃいます。でも10年も重ねれば〇kgです¹⁰⁹。先生、私の肥育は成功しました。でも知育はまだ

*104 拙著『不老不死』で始皇帝をとりあげています。

*105 二人称で「おじいちゃん」と呼ばれていました。自分のおじいちゃんに似てるんだとか。

*106 きなちゃん(孫なので「ちゃん」づけです)と、いぶきさんは仲良しで、いつも二人で遊びにきてくれていました。二人から思いがけず、かわいい手書きのお手紙をいただいたので、「手紙大公開(了済済み)」になってしまいました。

*107 「チャイ想」は一般教養の「中国の思想」です。この頃はまだ公開授業ではありません。

*108 子ども食堂。大人もだいじょうぶ。

*109 多少钱一斤?

まだです^{*110}。これからもよろしく願います。

「空中楼」に引き寄せられたユニークな友人達

平成 4 年度総合科学部国際文化コース日本美術史卒業

安井(武田)雅恵

大形徹先生には、大阪府立大学国際文化コース在学当時、専攻の学生ではないにも関わらず^{*111}、大変お世話になった。先生が莞爾として受け入れて下さったのを良いことに、研究室である「空中楼」には、4年間を通じて文字通り入り浸った。「空中楼」に引き寄せられたユニークな友人達に巡り会い、色彩豊かな学生生活が送れたのは先生のおかげである。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

下層に部屋がない宙ぶらりんの部屋

平成 4 年度総合科学部国際文化コース中国思想卒業

小坂香奈子

かれこれ 30 年前の事。当時、大形研究室は、下層に部屋がない宙ぶらりんの部屋、空中楼にありました。書道部の部室も兼ねていて、放課後、学生達が訪れると、なにも言わずにコーヒーの豆をひいておもてなしをしてくれるのが日課でした。

他学部の教員も学生も留学生も、空中楼にはいつもいろいろな人達がお^り^{*112}、毎日

楽しかったのを覚えています。桜の季節には、府大池で BBQ をしたり、学園祭では書道展をしたり、空中楼はいつもわいわい大家族のようでした。

わたしが人生どうすればもっと賢くスマートに生きられるか思い悩んだときに、先生はこう言いました。偉人ではなく奇人をめざしなさいと。昔から中国でも偉い人は山ほどいたが皆、名前を本に残して終わってしまっている。奇人の本来の意味は、他には代えがたい得難い人の事を指し、偉いだけの人になるなら奇人になった方がよいと。その時からわたしの人生の目標は偉人から奇人になりました^{*113}。

月日は流れ、空中楼は移り、先生も府大をご卒業です。先生のような奇人を目指し、不肖の弟子はまだまだ修行中です。これからもよろしく願います。

私の人生の一部

本学非常勤講師

王秉玉

大形徹先生と大学でお会いしてはや 20 年^{*114}の長きにわたり、本当にお世話になりました。改めて心からお礼を申し上げます。

大学で先生と共に過ごさせて頂いた時間はかけがえのない貴重な時間であり、私の人生の一部になっております。

*110 NHK 中国語ニュースの宿題を毎回、まじめにこなしているので中国語論文はふつうに読めるようになりました。あと漢文の訓読もうまくなりました。本人の努力もさることながら、教え方がうまいのだと思います(笑)。

*111 玉稿(別頁)を頂戴しました。感謝します。他大学の大学院を受験する際、漢文の試験があるということで特訓をしたことを覚えています。もちろん合格です。

*112 普通の研究室の半分ぐらいしか面積がなく、人口密度は相当高く、すれ違うのも大変だった。

*113 1 月 24 日、最終授業に卒業生たちが集まりました。そのときに小坂さんに初めて会った池内さんは、その奇人ぶりに衝撃を受けたそうです。

*114 大学で 20 年。初めてあったのは 1983 年、ハルビンです。王さんのだんなさんの趙さんの保証人が私です。船で来日し、南港まで車で迎えに行きました。上本町で開いている『莊子』の会にも出席してくれています。

授業、学問^{*115}等の質問に対して、お忙しいのにも関わらずご指導頂きましたことは到底感謝の念に堪えません。

また、様々な相談事にもその都度的確なアドバイスを頂きました事は一生忘れません。

大形先生はいつも夜遅くまで大学で一心不乱に真実を厳しく探求され、その研究姿勢は、眩しいほど輝いておりました。私にとっては憧れであり、私の鏡でした。心より尊敬致しております。また、そんな大形先生がこれまで積み上げられてきた偉大な業績に対し、心より敬意を表します。誠にお疲れさまでございました。

今後、益々のご健勝とご活躍をお祈り致しております。

本当にありがとうございました。

白鷺公園

本学非常勤講師・本学客員研究員

楊冰

大形先生は自分の事より人の事を考える方です^{*116}。

12年前、台湾で開かれる学会へ参加するため、私は他の知らない先生たちと一緒に飛行機に乗りました。飛行中に万年筆でメモを書いていると、気圧の影響で、万年筆の先からインクが溢れだし使えなくなりました。その時、後ろからボールペンを渡されました。大形先生でした。先生はいつ

ものように笑っていませんでした。当時私も先生のことを存じておりませんでした。が、「優しい方だ」と一瞬で感じました。

「楊さん、府大の近くに白鷺公園があるのを知っていますか？」と、初めて先生に白鷺公園の場所に案内してもらった時、公園の広さと空の広さに驚きました。なんて気持ちのよい場所と思いました。目立たない所にあるにもかかわらず、広い空や広大な池、伸び伸びと暮らしている野鳥や猫などに出会える。白鷺公園は大形先生のように感じます。違うのは、公園はいつものんびりしていますが、先生はいつも忙しいです^{*117}。同じなのは、いずれも訪れる人々に憩いの時間を与えることです。

憩いの場（大形教授研究室）がなくなるとは残念ですが、今までそこに通えたことは一つの幸せとして、私の人生にしっかりと残りました。大形先生、ありがとうございました。

大形徹先生とその研究室

立命館大学非常勤講師・本学客員研究員

秋山陽一郎

第4号の表紙を飾るのは、本号に寄稿して下さった大形徹先生とその研究室^{*118}です。私も何度かお訪ねしていますが、いつ伺っても先生の教え子や客人で賑わっていて、冗談を飛ばしながら手料理を振る舞って下さいます。今年3月いっぱい定年

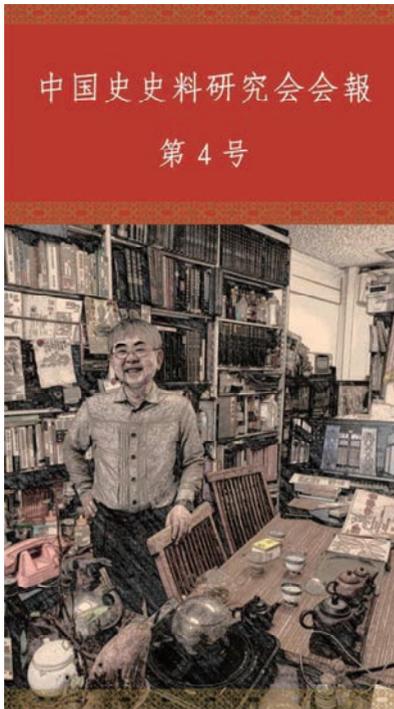
*115 王秉玉さんとは共著で、「中国人学生の受講する中国語初級クラスの授業方法について」という論文を書きました。王さんは富田林市の小学校でも、日本で生まれ育った中国人の児童（小学生）の中国語のフォローをしています。

*116 楊さんの出産の際に授業の代行を引き受けたことがあります。アンちゃんが生まれてからも、しょっちゅう研究室に連れてきてくれました。先日、いらっしゃったときはアンちゃんが府大校内で摘んだタンポポの花束をプレゼントされました。いつのまにか二年生になっていて、お母さんをやり込めるほど成長していました。

*117 楊さんに誘われ、研究室から引きはがされて、みんなで白鷺公園に散歩に行ったことが何度かあります。ヘビがいて留学生の劉源さんが怖がったこともありましたが、カキツバタが咲き、水鳥がいて、やすらぎの場所です。

*118 研究室の我楽多をみなさんにもってかえっていただきました。

退職されるのが残念でなりません。(編集後記より転載)



秋田の私立大学教員の公募に

平成30年度人間社会システム科学研究科人間科学博士
後期課程中国思想修了

村上心一郎

大形徹先生、この度はご退職おめでとうございます。本当にお疲れさまでございました。

社会人の私は還暦を過ぎて大学院博士課程に入学しましたが、後期課程修了まで多方面にわたるご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

私は修士課程の専攻が現代中国語で、中

国古典文献の解説が難しく苦勞しましたが、その都度、懇切丁寧なご指導を頂き、先生のご専門の道教のみならず、仏教、儒教、医学、考古学と多分野にわたりご教授いただきました。博士後期過程の途中で秋田の私立大学教員の公募があり、私が迷っていた時、先生から力強いお言葉で背中を押していただき、おかげで無事に採用され¹¹⁹、定年まで教壇に立つことができました。

一方、先生はいつも笑顔で、学問以外のことも気軽に相談にのってください、昼休みは学生と一緒に料理や書画を楽しみ、和やかな研究室でした。学問のみならず、教育・研究者としての生き方を教えていただきました。本当にありがとうございました。最後に、先生の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

*119 還暦を過ぎてから大学の教員に採用されるなんてすごいことです。